

イプソス教育調査

教育に関するグローバルな世論調査

2023年9月

GAME CHANGERS



目次

教育に対する考え方

[4ページ](#)



学校が直面する課題

[9ページ](#)



教員に対する考え方

[13ページ](#)



教育における 社会的不平等

[20ページ](#)



AIとテクノロジーの影響

[24ページ](#)



付録

[28ページ](#)





まとめ： 主要統計

あなたの国の教育システムをどう評価しますか？

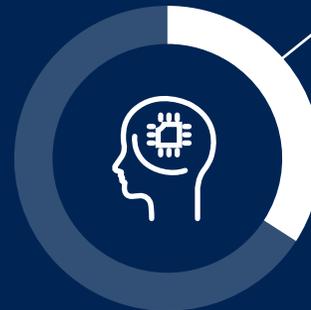


調査対象となった29か国中28か国で、学位を取得することは人生で成功するために非常に重要だと回答する人が多くなっている。



45%

が知り合いに教員になることを勧めない。
43%は勧める。



29%

が学校でのAIの使用を禁止すべきだと考えている。

教育に対する考え方





ヘッドライン



「貧弱」とみなされる教育

しかし、国によって意見はかなり異なる

29か国全体では、自国の教育システムについて「良い」よりも「悪い」と答える人が多い。

しかし、人々が自国の教育システムをどう考えているかについては、国によって大きな違いがある。

学校に満足している人が最も多いのはシンガポールとアイルランドとなっている。一方、ハンガリーは最も満足度が低く、3分の2が教育システムは貧弱だと回答している。



両親はより前向き

学齢期の子供がいる人は、
教育により満足している

世界の一般大衆は、自国の教育システムがうまく機能していると考えていないが、親たちは機能していると考えている。

学齢期の子どもを持つ親の10人に4人(39%)は、自国の教育は良いと答えているのに対し、悪いと答えた親は3分の1だった。



悪化

多くの人は教育が衰退していると
感じている

およそ2人に1人(46%)が、自国の教育システムは自分の学生時代と比べて悪くなったと感じている。

こうした意見は高年齢層や学齢期の子供がいない層で多い。

ベビーブーマーの4人に3人は、自国の教育システムの質が自分の学生時代より悪くなったと回答している。

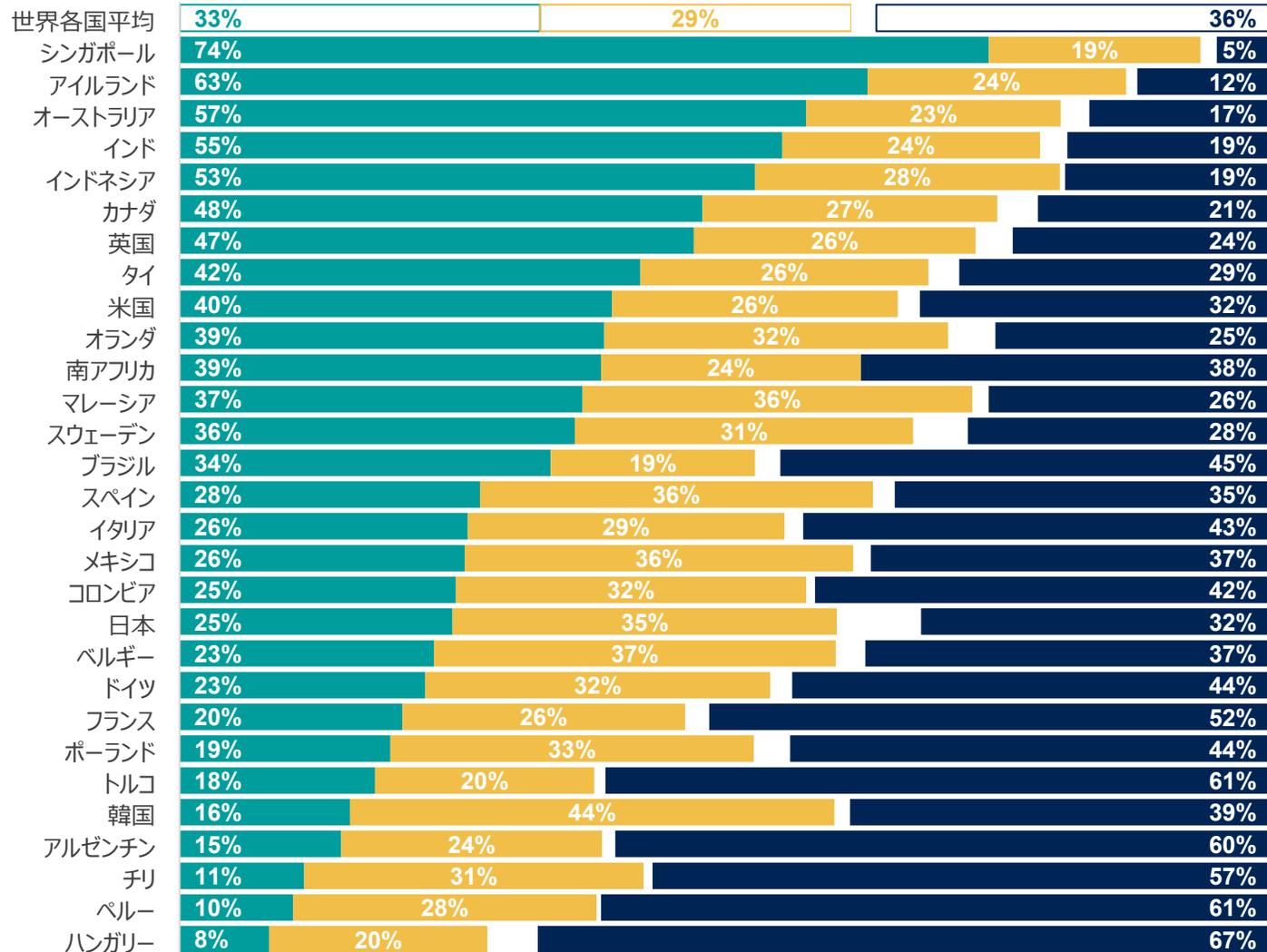
ハンガリーとフランスは、教育システムが良くなったと答えた人の数が最も少ない国である。



世界各国平均で見ると、**教育システムの質が良い**と考えるのは3人に1人（33%、就学年齢の子供を持つ親では39%）に過ぎません。最も肯定的なのはシンガポールで、PISAのスコアと一致しています。

国別データ

Q. あなたの国における教育システムの全体的な質をどう評価しますか？



良い

どちらともいえない

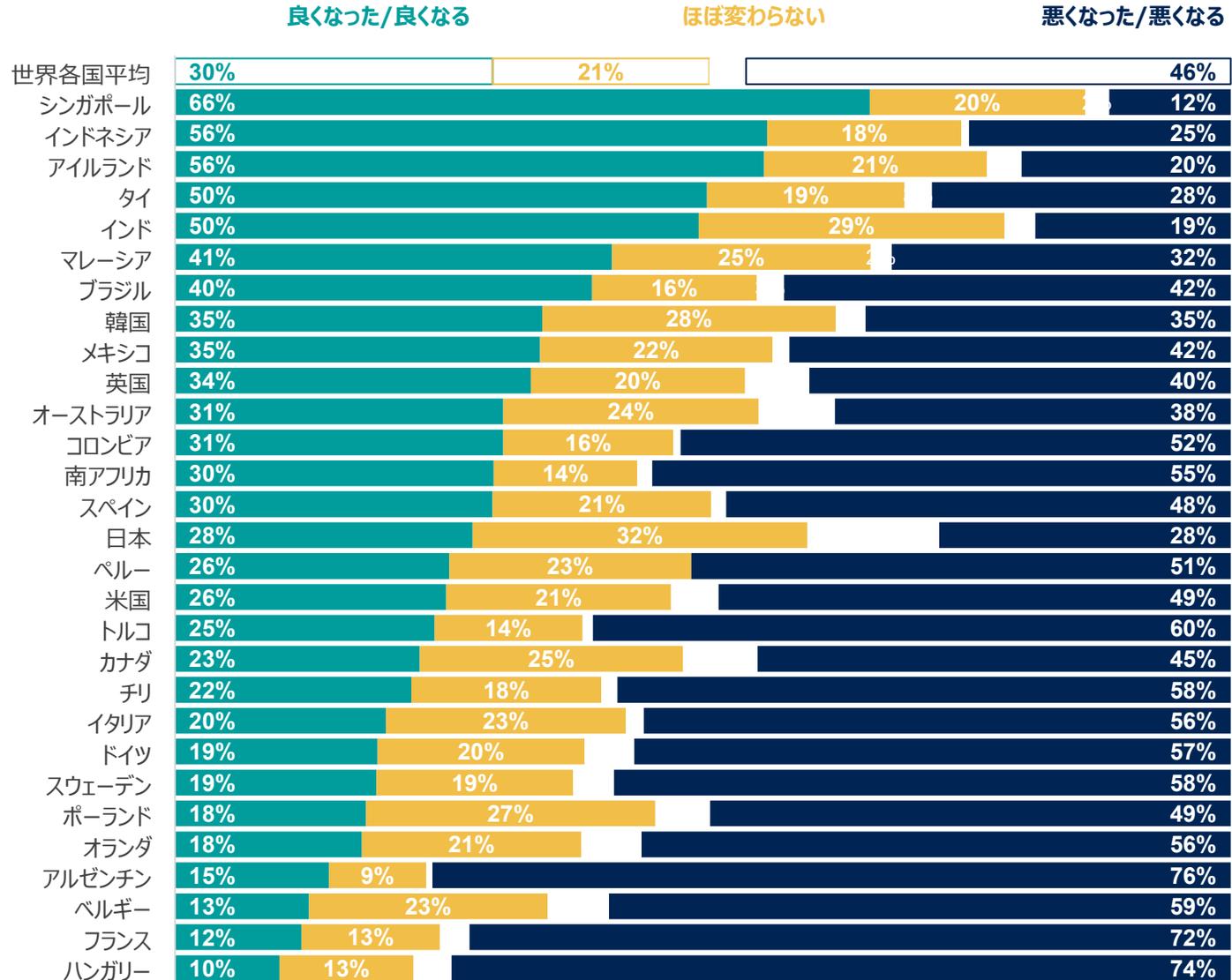
悪い



そして、およそ2人に1人が、自分の学生時代と比べて**教育システムは悪化している**と考えています。この割合は、アルゼンチン、ハンガリー、フランスでは3人に2人以上にのぼります。

国別データ

Q. あなたの国における現在の教育システムの全体的な質は、あなたが学生だった頃と比較して…



良くなった/良くなる

ほぼ変わらない

悪くなった/悪くなる

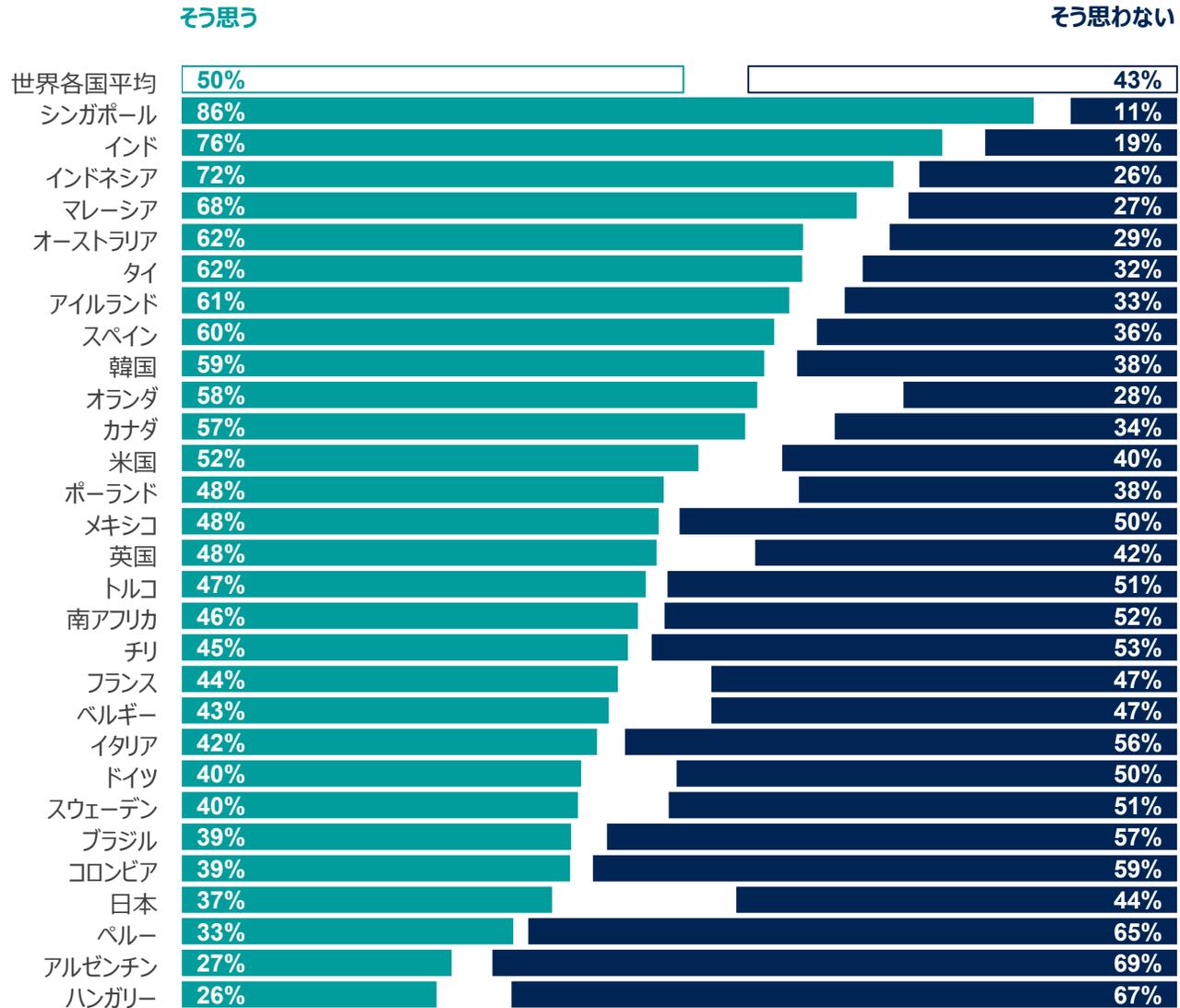


多くの国、特にラテンアメリカ諸国では、ほとんどの教育機関が十分なリソースと施設を備えていないと、大多数の人が考えています。

国別データ

Q. 次の記述にどの程度同意できますか？

あなたの国では、大半の教育機関が十分なリソースと施設（教科書、テクノロジー、研究所など）を備えている

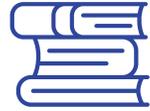


学校が直面する課題





ヘッドライン



最重要課題

人々はカリキュラムが最大の課題だと認識している

29か国で、時代遅れのカリキュラムが教育システムが直面している最大の課題とみなされている。

自国の教育システムが直面する最大の課題の一つとして、[10人に3人\(30%\)がこの問題を選んでいる](#)。

これはポーランドで最も高く、およそ2人に1人(46%)が問題視している。[国別の内訳はここをクリック](#)。



問題は国境を越えてさまざま

不平等と過密が大きな懸念材料に

しかし、[教育を受ける機会の不平等\(29%\)](#)と[教室に生徒数が多過ぎること\(29%\)](#)が、学校が直面する最大の課題として僅差で続いている。

[インドネシアが教育を受ける機会の不平等について最も懸念している国](#)である一方、[オランダは教室に生徒数が多すぎる点を課題として挙げるのが最も多い国](#)となっている。

[学齢期の子どもがいる親たちの意見はここをクリック](#)。



改善すべき点

好奇心と創造力のためにもっと多くの時間を

[2人に1人以上が、自国の学校のカリキュラムには好奇心、批判的思考、創造力を奨励する十分なスペースが与えられていないと答えている](#)。

また、学生間の協力をもっと奨励すべきだと考える人も多い。しかし、読書、筆記、計算などの基本的な技術に関する教育が学校で十分に行われているかどうかについては意見が分かれている。

39%がそれを開発するためのスペースが足りないと感じ、38%はちょうどいいと答え、14%は多すぎると考えている。

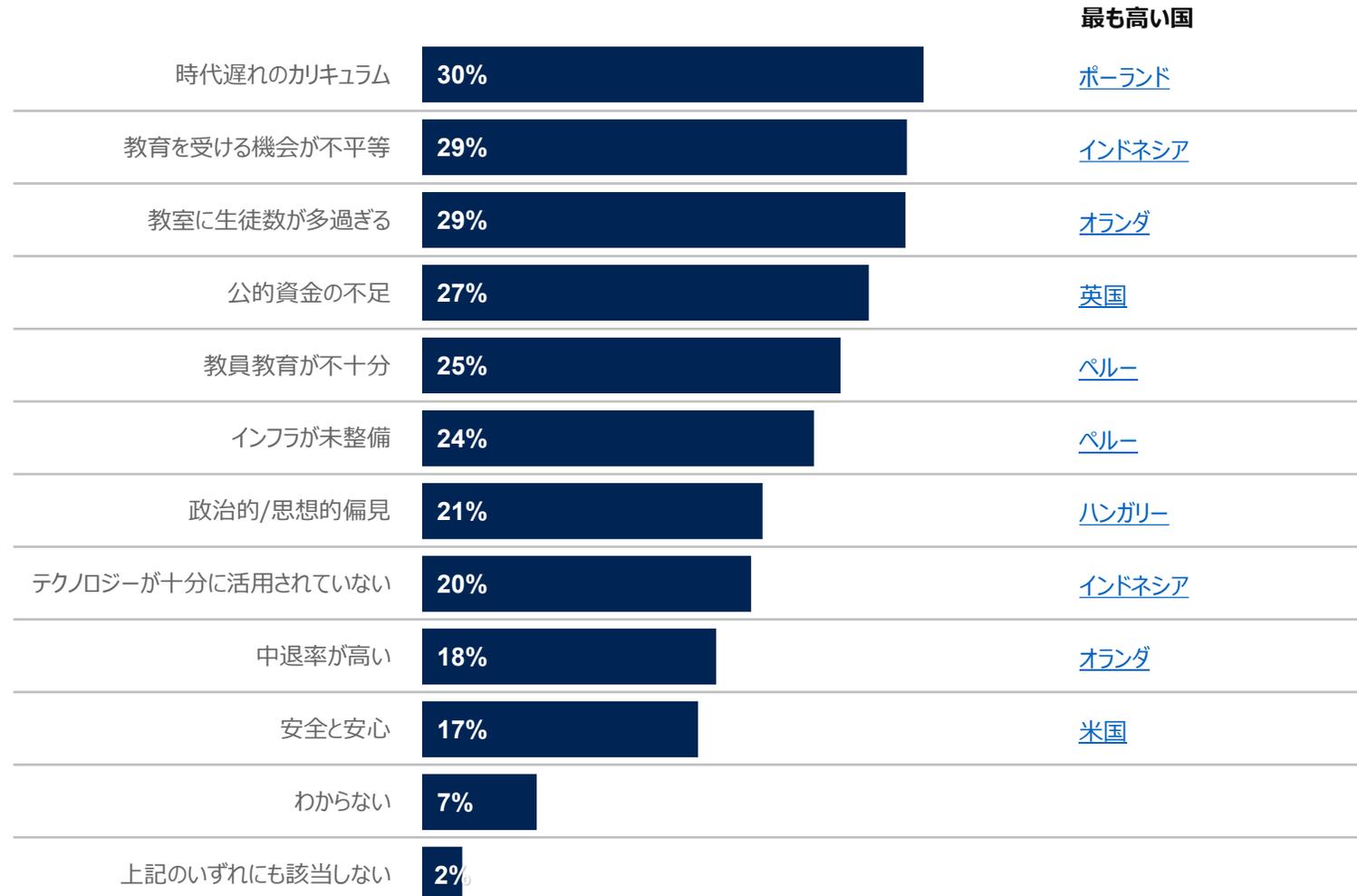


時代遅れのカリキュラムは、全体的に見て最大かつ最も一般的な課題と考えられています。

世界各国平均

Q. あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

 国別の詳細な内訳は
チャート内のリンクをクリック

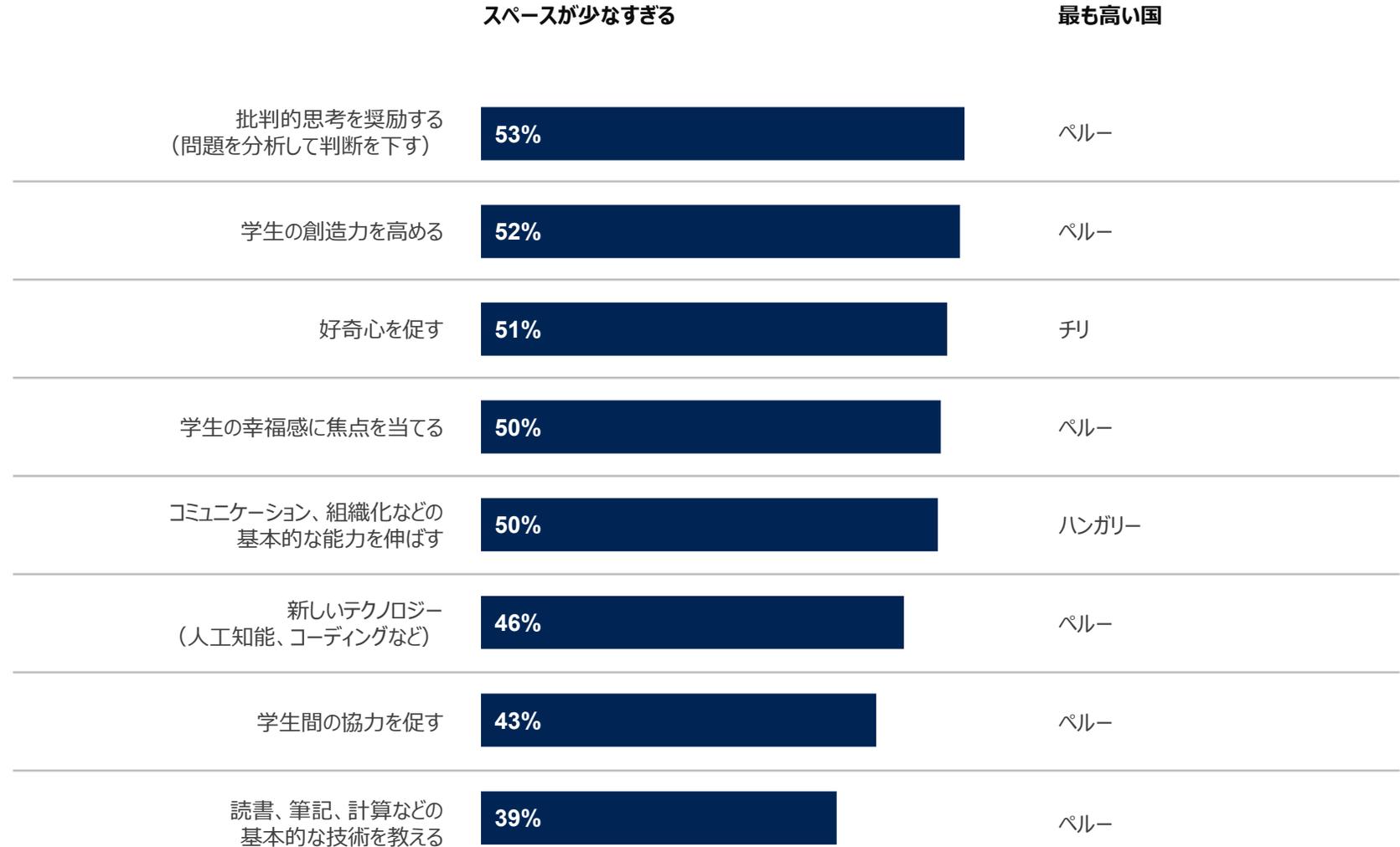




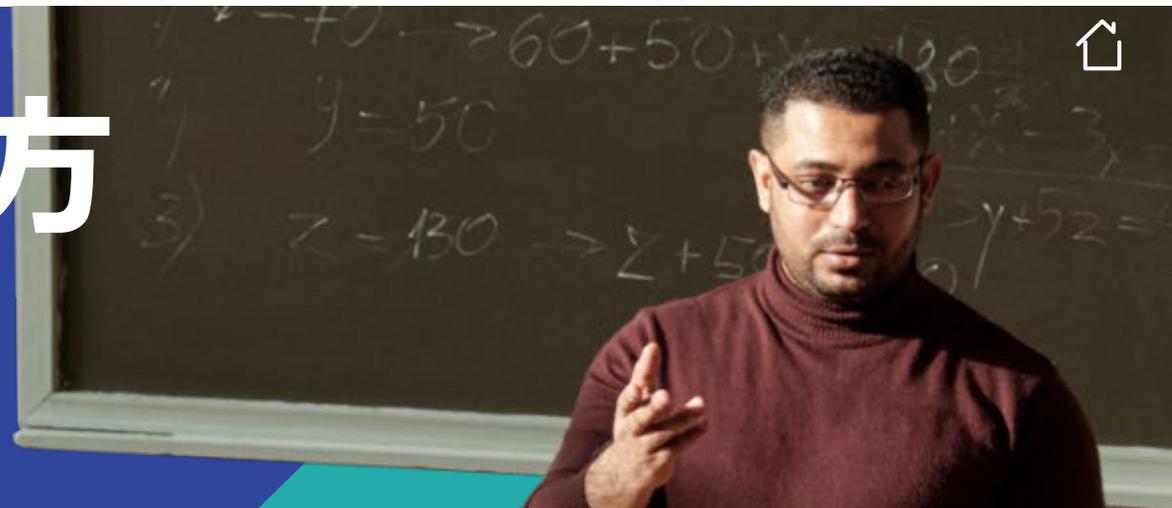
2人に1人以上が、学校のカリキュラムには批判的思考、創造力、好奇心を奨励するスペースが少なすぎると考えています。

世界各国平均

Q. あなたの国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？



教員に対する考え方





ヘッドライン



キャリアとしての教職

多くの人が教員になることを勧めない

29か国全体では、教員になることを勧めないという人の方が、勧めたいという人よりも多い。

ハンガリー、日本、ポーランド、韓国、フランス、ドイツの6か国では、過半数が自分の子供や若者に教職に就くことを勧めないと答えている。

全般にアジア太平洋地域は、教えることを勧める人が最も多い地域となっている。



教員のワークライフバランス

教員は仕事熱心だと思われる

教えるという仕事がいかに困難であるかということが理解されている。

29か国全体では、3分の2(67%)が教員は熱心に仕事に取り組んでると回答している。

この意見はブラジル、オランダ、シンガポールで最も多く、5人に4人がそう思うと回答している。

教員は仕事熱心と答える人より熱心でないと答える人の方が多いのは、韓国のみとなっている。



教員の給与

教員の給与が十分かどうかで意見が分かれる

教員が仕事熱心であることは認めつつも、世界レベルでは、教員が十分な報酬を得ているかどうかで意見が分かれている。

教員に十分な給与が支払われているとの回答46%、そう思わないとの回答は46%となっている。

教員の給与は十分との回答は、インド、シンガポール、マレーシアで最も多い。

アルゼンチンとハンガリーでは、4人に3人が教員に十分な給与が支払われていないと回答している。

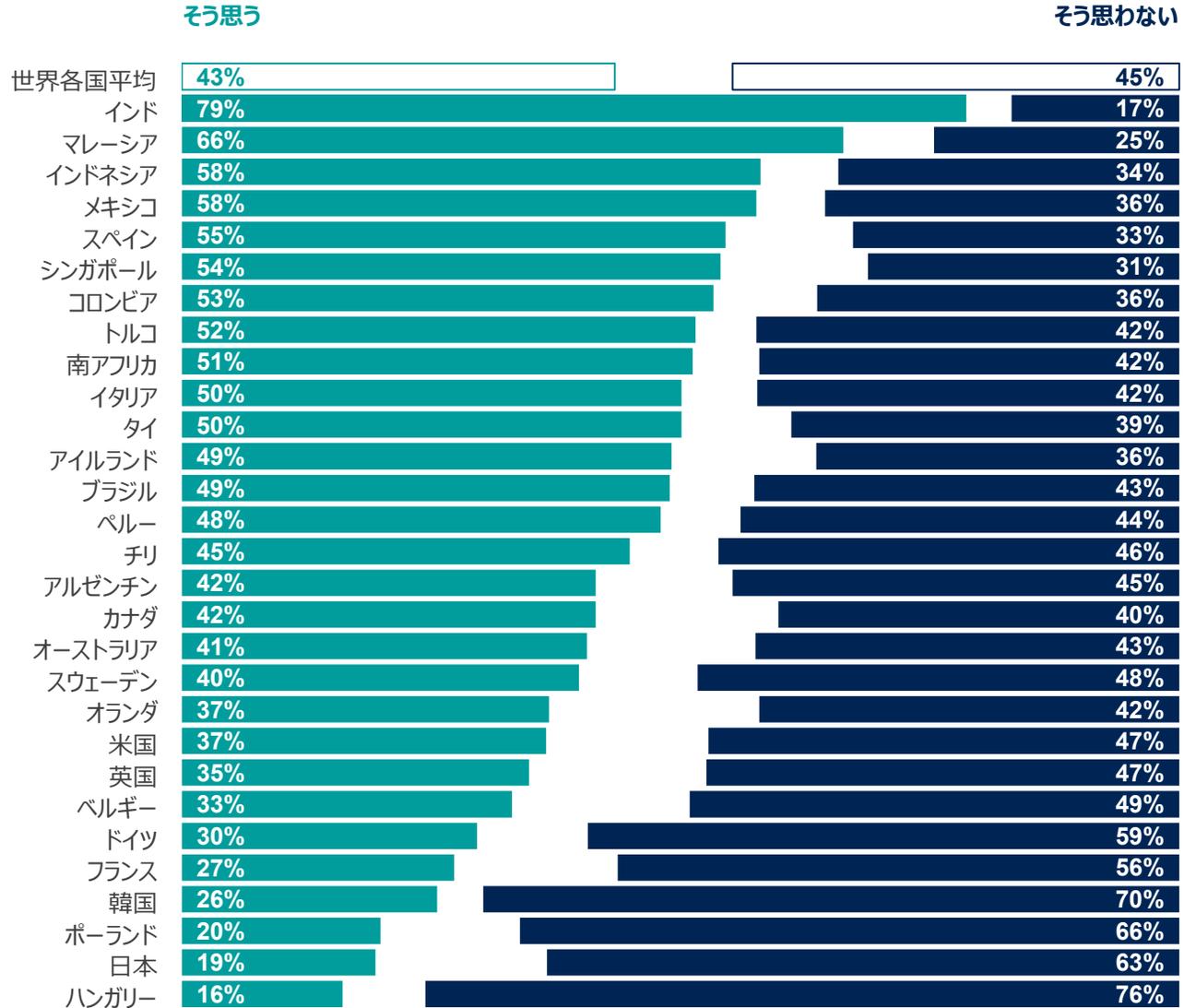


Q

次の各記述にどの程度同意できますか？

自分の子供や面識のある若い人に、教員になるよう勧めたい

国別データ



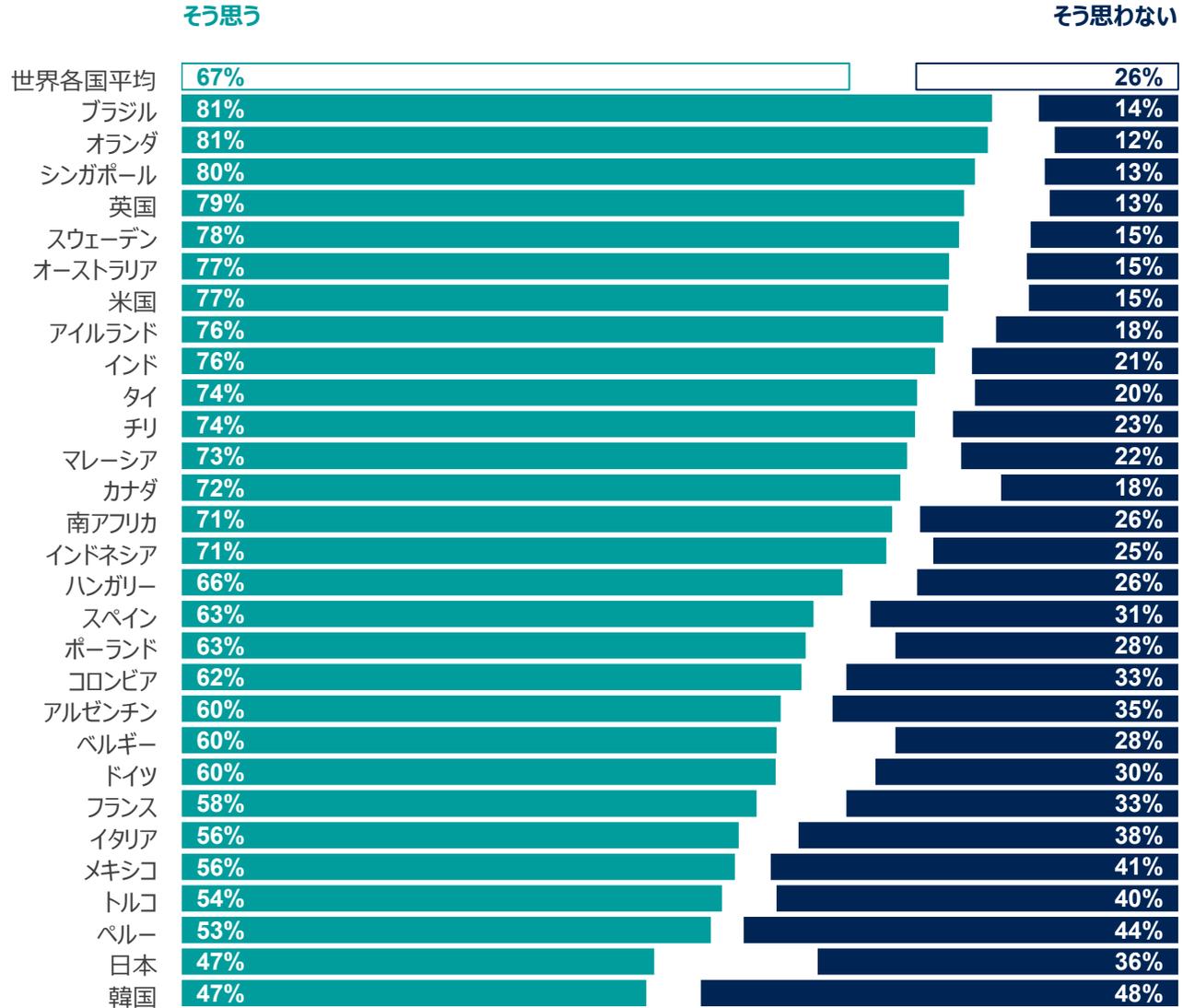


Q

次の各記述にどの程度同意できますか？

あなたの国では、大半の教員が仕事に熱心に取り組んでいる

国別データ



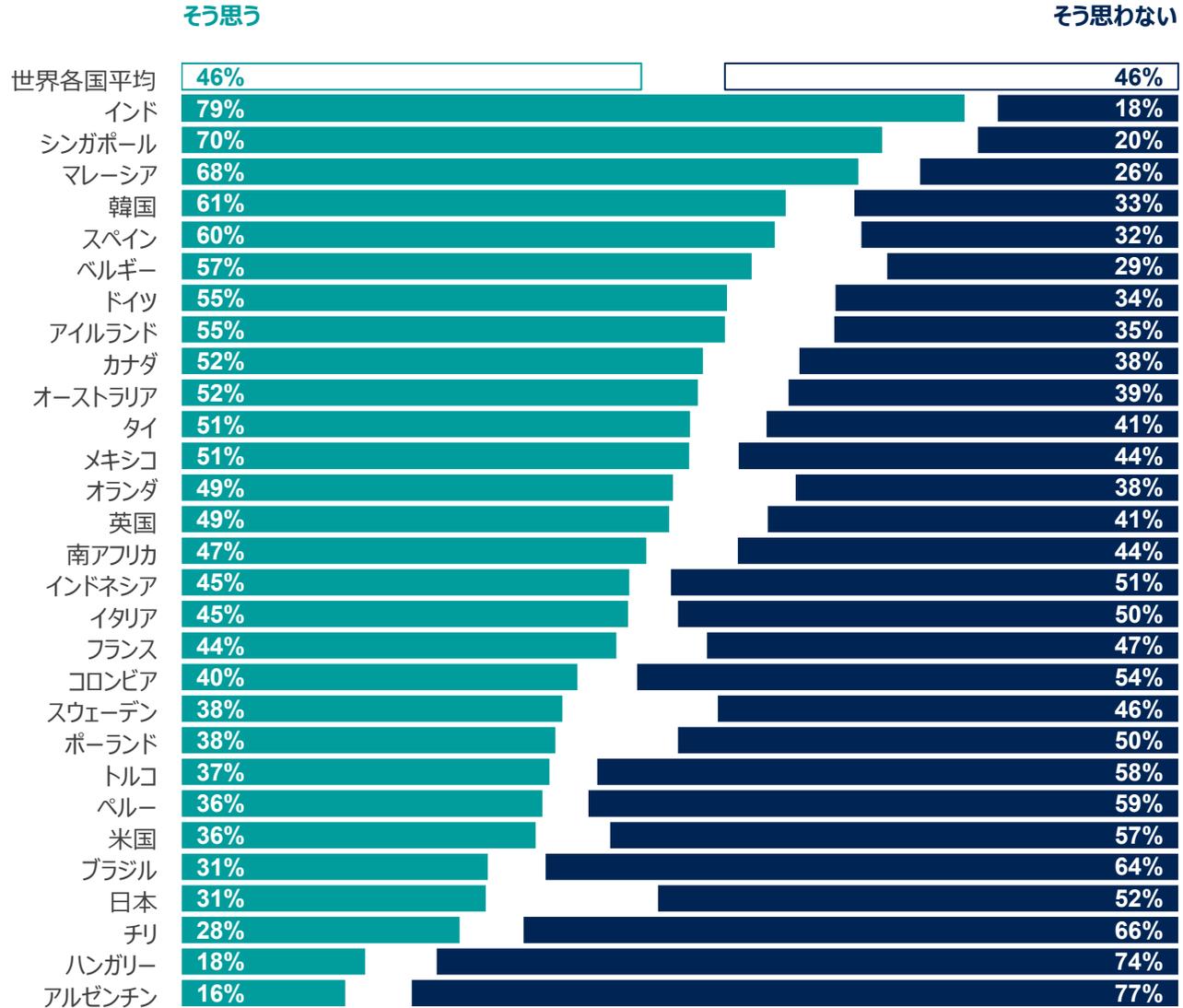


Q

次の各記述にどの程度同意できますか？

あなたの国では、大半の教員に十分な給与が支払われている

国別データ



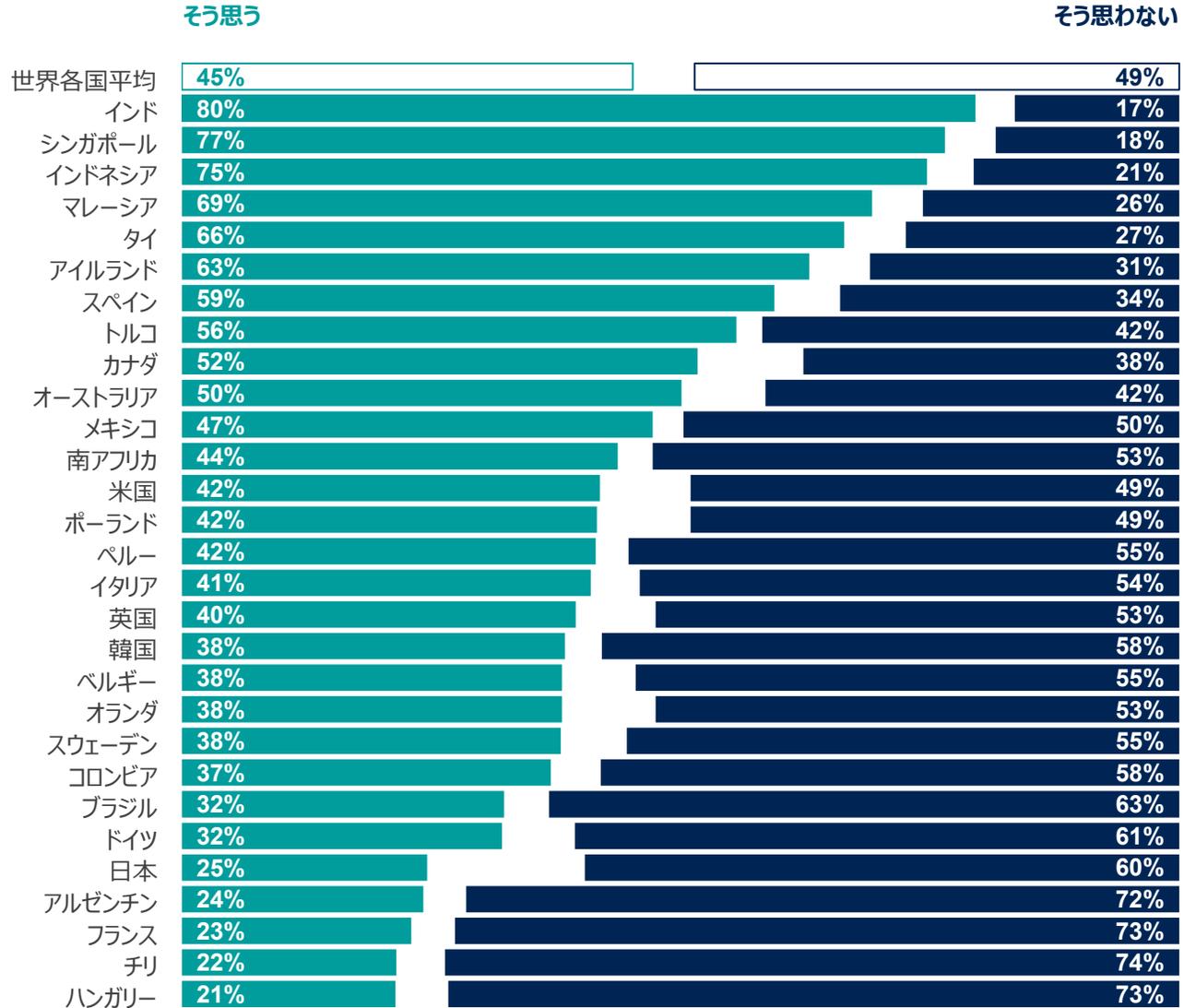


Q

次の各記述にどの程度同意できますか？

あなたの国では、大半の教員が十分に敬われている

国別データ



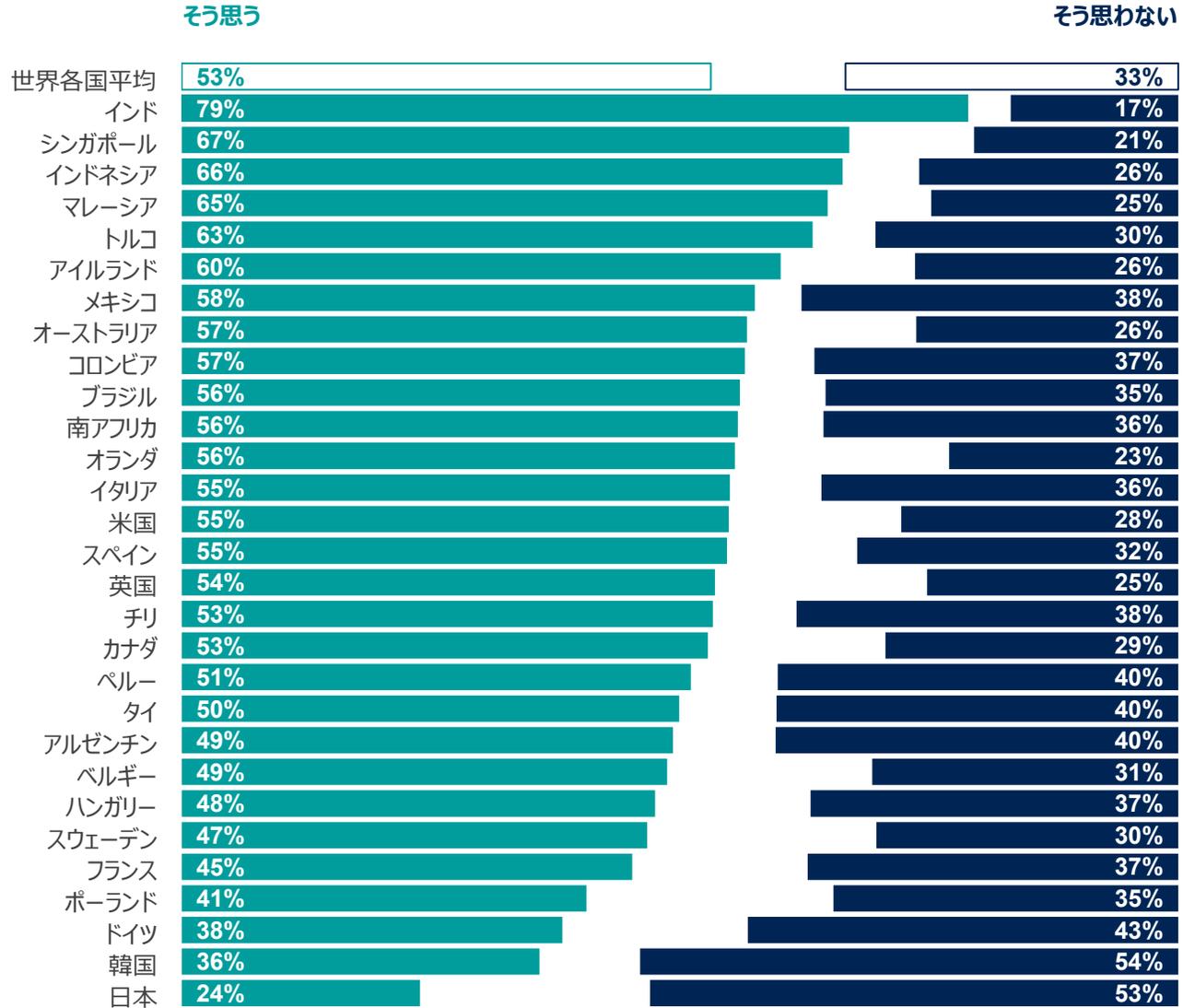


Q

次の各記述にどの程度同意できますか？

あなたの国の教員は、自分と似たような価値観を持つ傾向がある

国別データ



教育における 社会的な不平等





ヘッドライン



学校における不平等

学校が不平等を緩和できるかどうかで意見が分かれる

29か国で2人に1人(51%)が、自国の教育システムが社会的不平等の緩和に貢献していると考えている。

ハンガリー、日本、ポーランド、韓国、ドイツ、フランス、ペルー、チリ、トルコの9か国の人々は、自国の教育システムが不平等を緩和していないと回答している。



世代間ギャップ

若い世代は学校が不平等を緩和できると考えている

学校が不平等の緩和に役立っているかどうかについて見ると、そう思うと考えているのは若年層である。

ミレニアル世代では55%がそう思うと考える一方、そう思わないは38%、Z世代では54%がそう思う、そう思わないが38%となっている。

高年齢層では意見が分かれている。ベビーブーマーでは、教育システムが社会的不平等を緩和できるかどうかについて意見が二分している。



大学の重要性

大学進学は人生の成功に不可欠と考えられている

調査対象となった29か国のほぼすべてにおいて、大学の学位を取得することは人生で成功するために非常に重要だと考える傾向がある。

そう考える人が最も多い地域は、インド、シンガポール、マレーシアといったアジア太平洋の国々である。

反対に少ないのはヨーロッパで、ベルギーは人生で成功するのに学位の取得はあまり重要ではないという意見が多い唯一の国となっている。

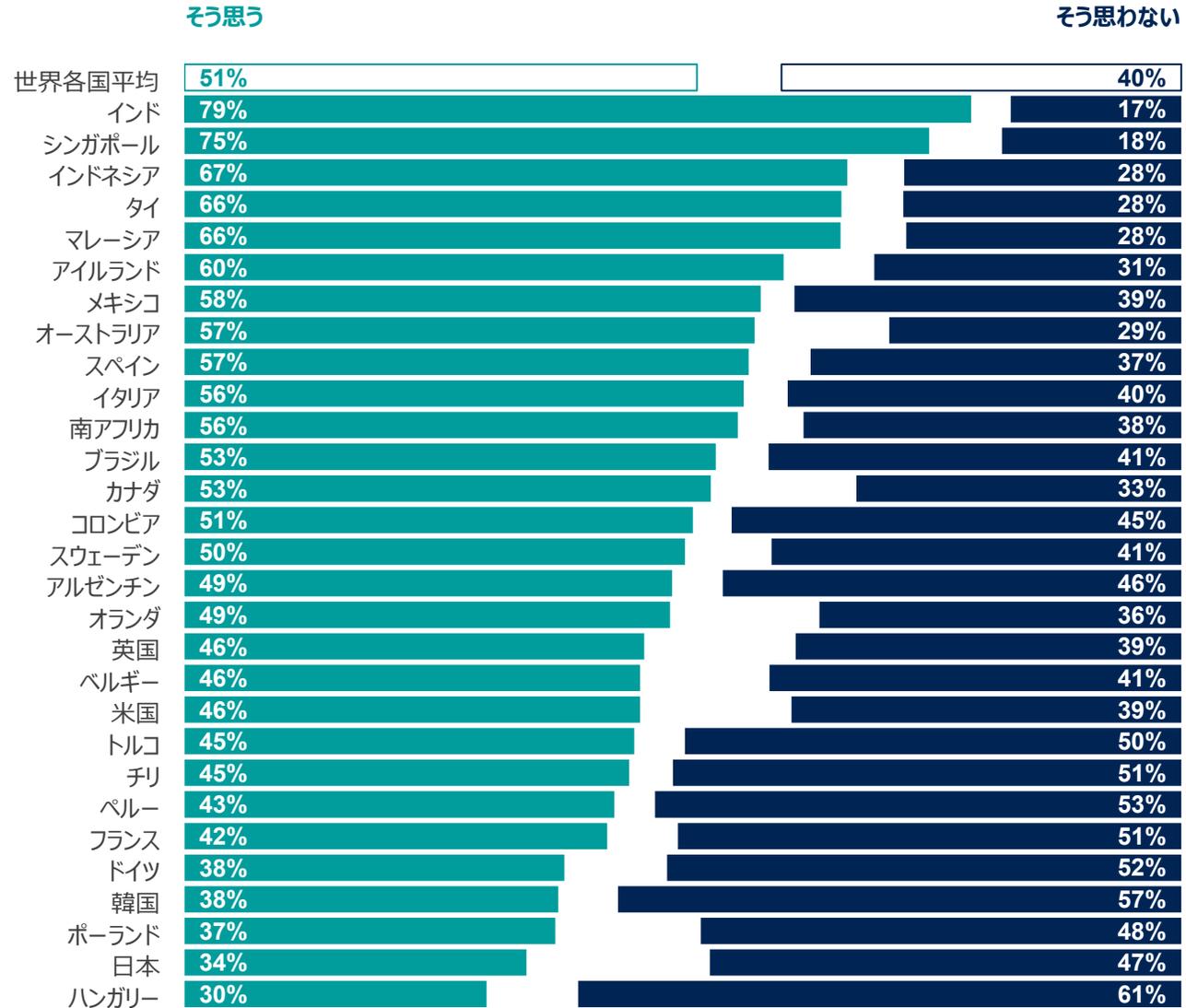


学校制度に批判的な意見が多い国々では、社会的不平等の緩和に役立っていないと考える人が多数を占めています。

国別データ

Q. 次の記述にどの程度同意できますか？

あなたの国における教育システムは、社会的不平等の緩和に貢献している



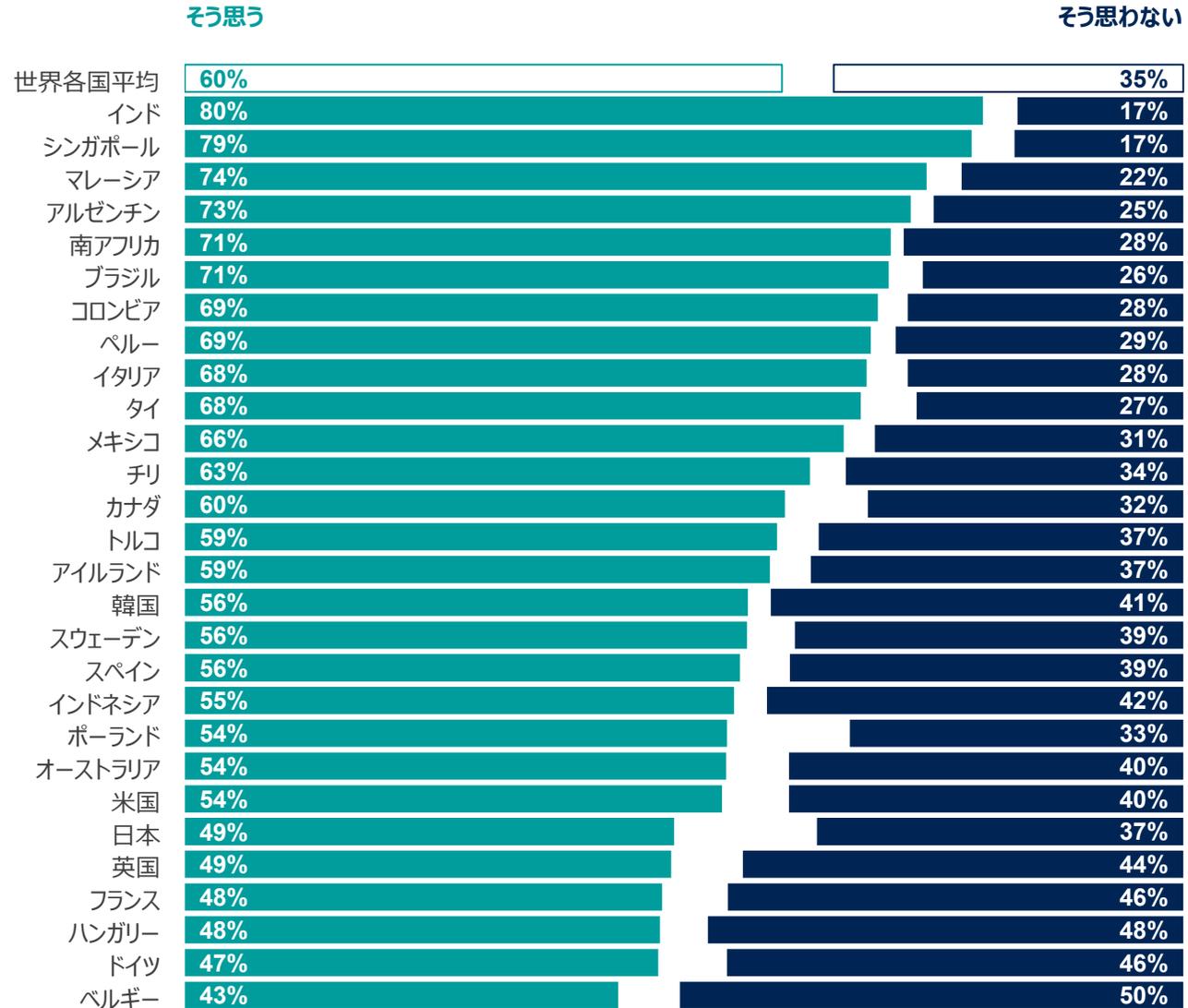


1か国（ベルギー）を除くすべての国で、人生で成功するためには学位が非常に重要だと答える人が多くなっています。教育レベルの高い人たちはそう感じています。

国別データ

Q. 次の記述にどの程度同意できますか？

短大/大学の学位を取得することは、人生で成功するために非常に重要である



AIとテクノロジーの 影響





ヘッドライン



教室におけるAI

AIに対する意識はおおむね肯定的だが、すべての国でそうであるわけではない

世界的に見て、教室におけるAIなどテクノロジーは、ネガティブな影響よりもポジティブな影響の方が大きいと考えられている。

しかし、5人に1人は教育に悪い影響を及ぼすと考えている。

カナダ、アメリカ、フランスは、AIはポジティブな影響よりもネガティブな影響をもたらすと考える傾向が強い。



認識はさまざま

AIの位置づけは国によって大きな違いがある

AIの効果に否定的な国の中には、学校での使用を禁止すべきだと考える国もある。

フランス、オーストラリア、アイルランド、カナダでは、禁止すべきだという意見が多い。

トルコ、マレーシア、アルゼンチン、ペルーは、禁止に反対する声が多い国となっている。



教員のトレーニング

教員はAIについてもっとトレーニングを受けるべきだという意見で一致

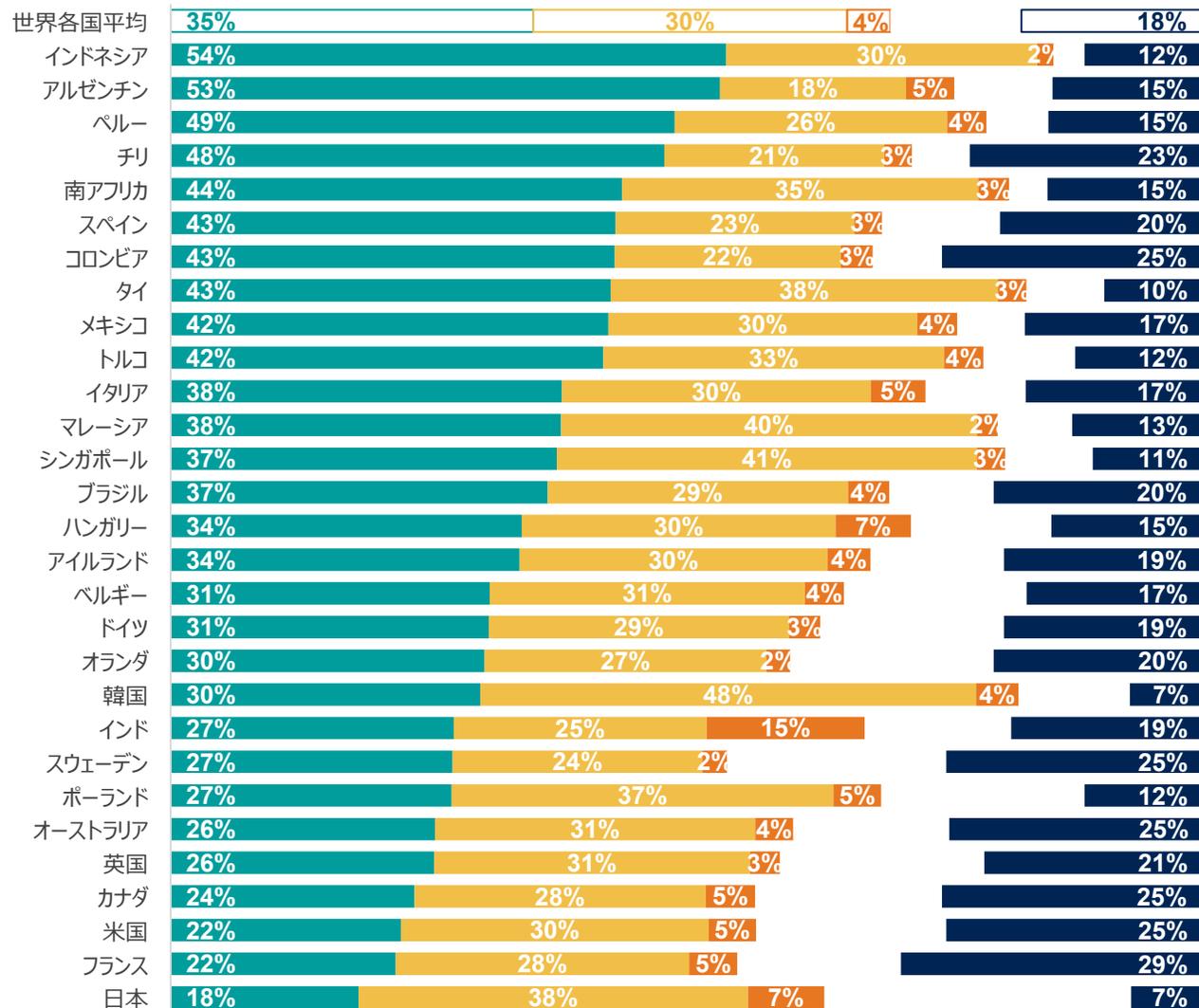
AIに対する考え方や生徒の日常においてAIが果たす役割については意見が分かれるが、教員がAIに関するトレーニングをもっと受けるべきだという点では意見が一致している。

29か国の3分の2は、教員はAIを使った指導法についてトレーニングを受けるべきと考えている。10人に7人は、教員は生徒にAIの使い方を教えるべきと考え、また生徒がAIを使っているかどうかを見抜くためのトレーニングを受けるべきと考えている。

Q

テクノロジーの進歩（人工知能を含む）は、将来の教育にどのような影響を与えると思いますか？

国別データ



ネガティブな影響よりもポジティブな影響が大きい

ポジティブな影響とネガティブな影響が半々/中立

影響はない

ポジティブな影響よりもネガティブな影響が大きい



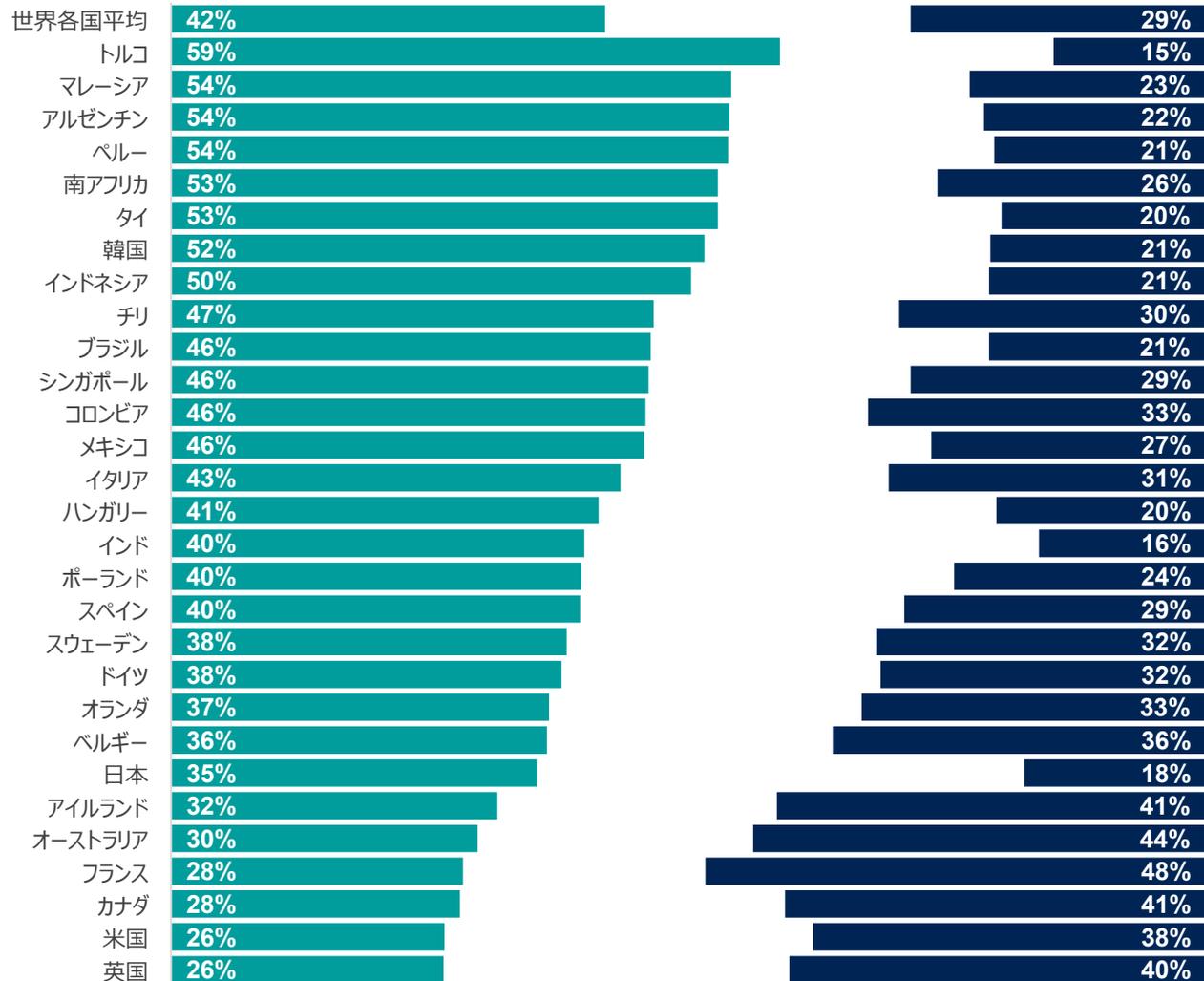
学校でのAI使用禁止に賛成するのは3人に1人以下で、プライバシーへの懸念から欧米諸国で初めてChatGPTを使用禁止にしたイタリアのような国でも同様です。

国別データ

Q. 学校でAI（ChatGPTを含む）の使用を禁止すべきだと思いますか？

いいえ、禁止すべきではない

はい、禁止すべきである



付録

このセクションでは、
国別、子供を持つ親別など、
調査結果のさまざまな側面を
さらに詳しく説明します



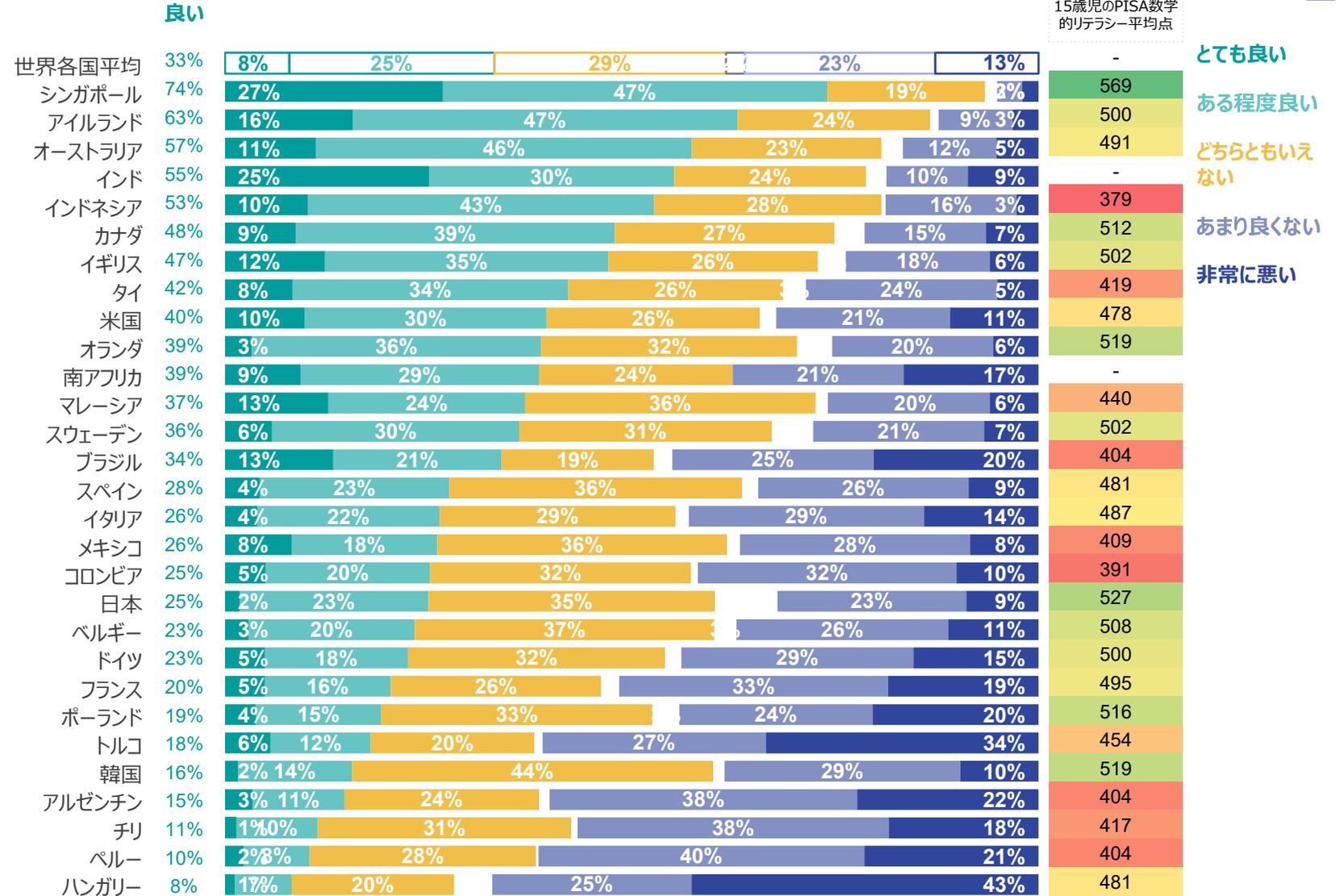


2018年
15歳児のPISA数学
的リテラシー平均点

世界各国平均で見ると、教育システムの質が良いと考えるのは3人に1人（33%、就学年齢の子供を持つ親では39%）に過ぎません。最も肯定的なのはシンガポールで、PISAのスコアと一致しています。

国別データ

Q. あなたの国における教育システムの全体的な質をどう評価しますか？

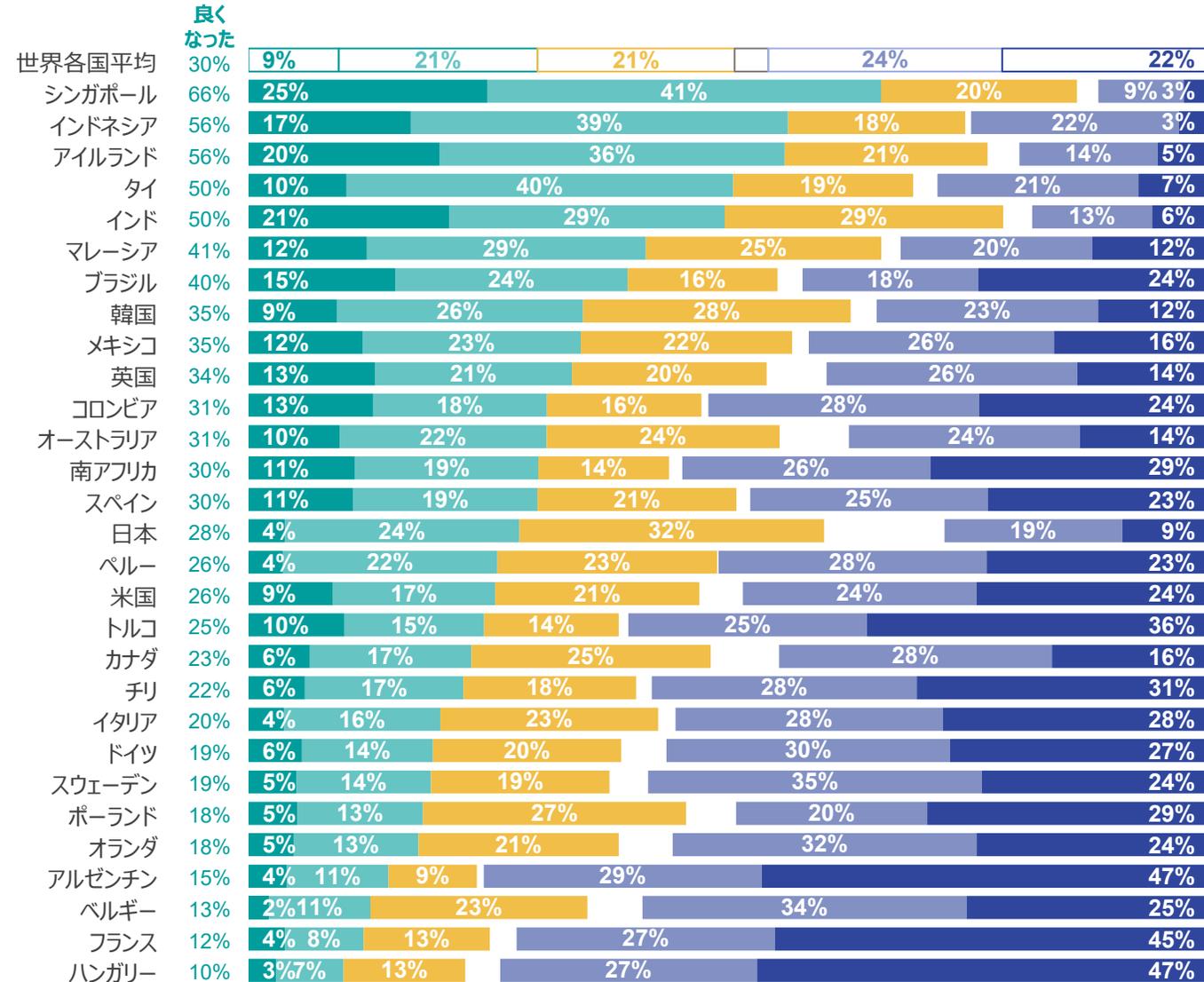




そして、およそ2人に1人が、自分の学生時代と比べて教育システムは悪化していると考えています。この割合は、アルゼンチン、ハンガリー、フランスでは3人に2人以上にのぼります。

国別データ

Q. あなたの国における現在の教育システムの全体的な質は、あなたが学生だった頃と比較して…



非常に良くなった/良くなる

やや良くなった/良くなる

ほぼ変わらない

やや悪くなった/悪くなる

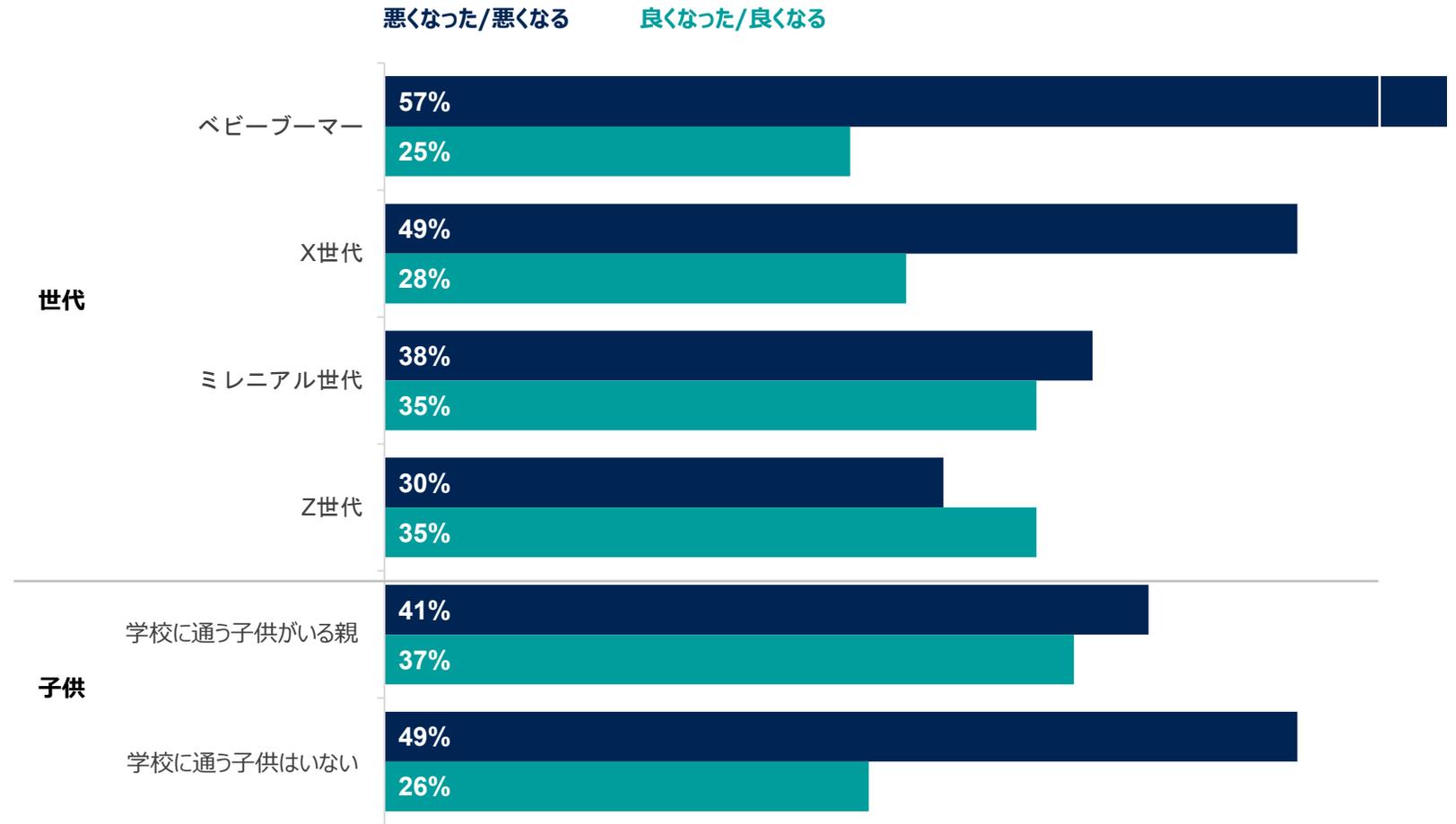
かなり悪くなった/悪くなる



高年齢層や学齢期の子供のいない人は、自分の学生時代よりも教育は悪くなったと答える傾向が強くなっています。

国別データ

Q. あなたの国における現在の教育システムの全体的な質は、あなたが学生だった頃と比較して…

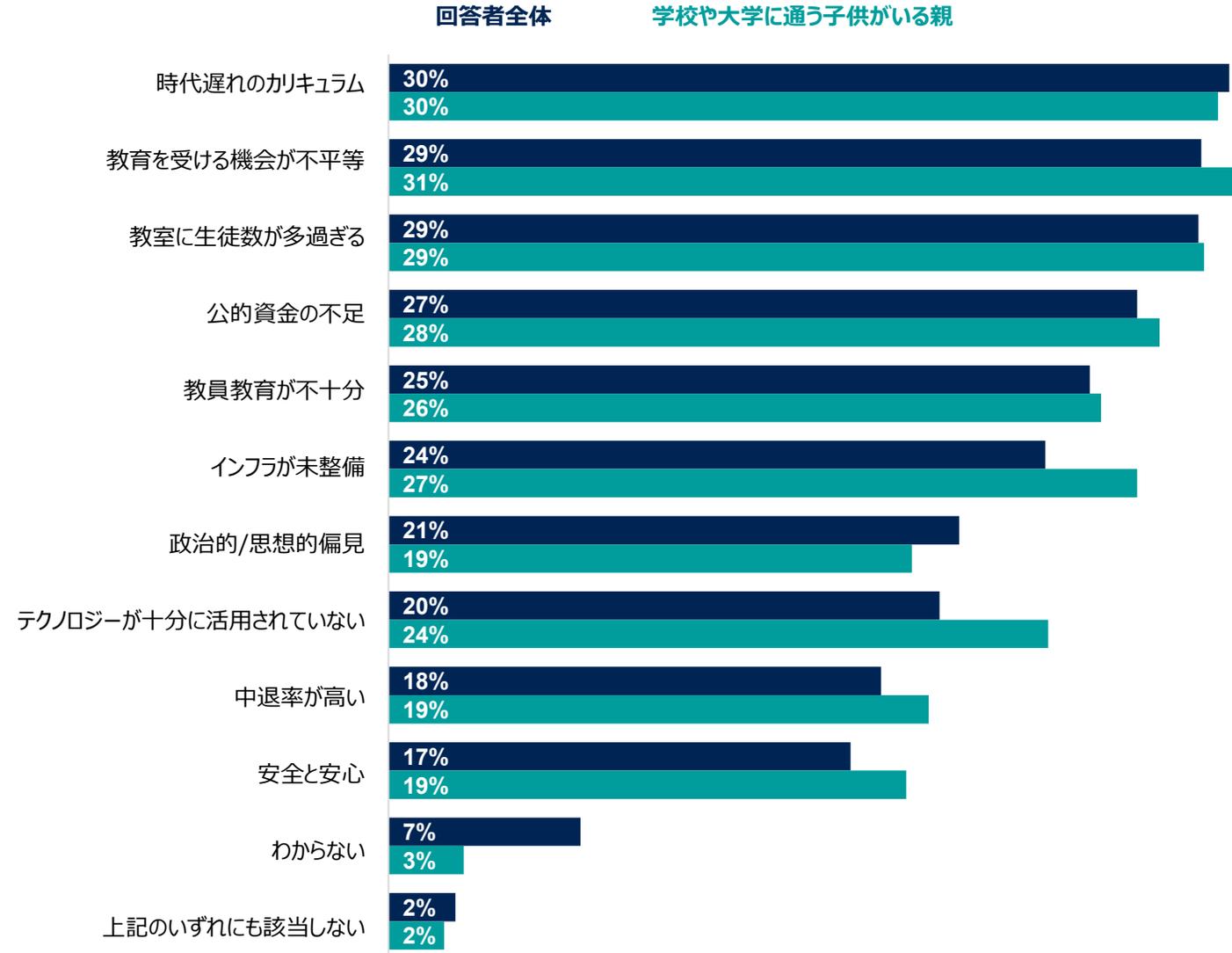




時代遅れのカリキュラムは、最大かつ最も一般的な課題と考えられています。

世界各国平均

Q. あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）



ベース：29か国の大人23,248人。2023年6月23日～7月7日にオンラインで実施。



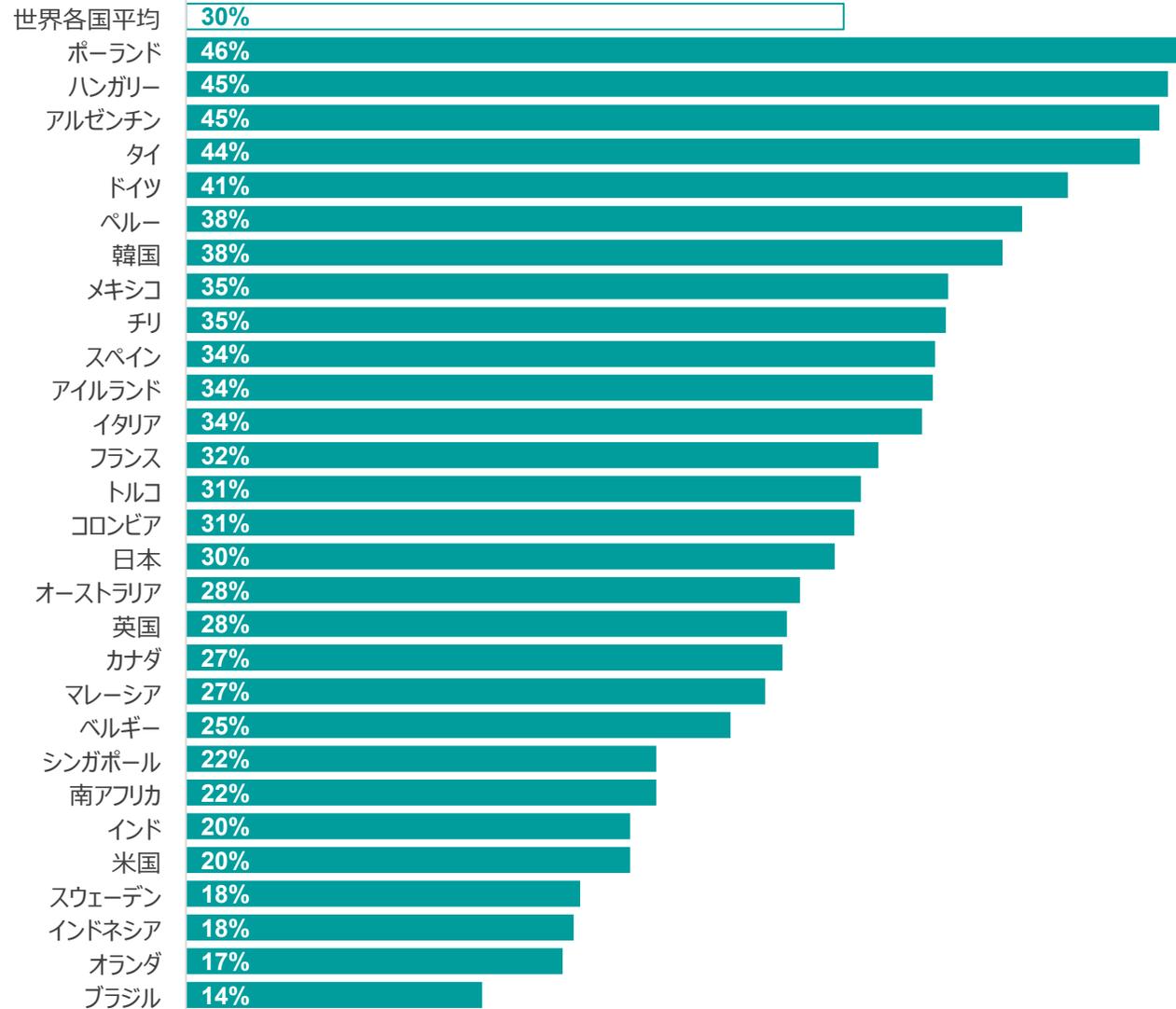


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

時代遅れのカリキュラム

国別データ



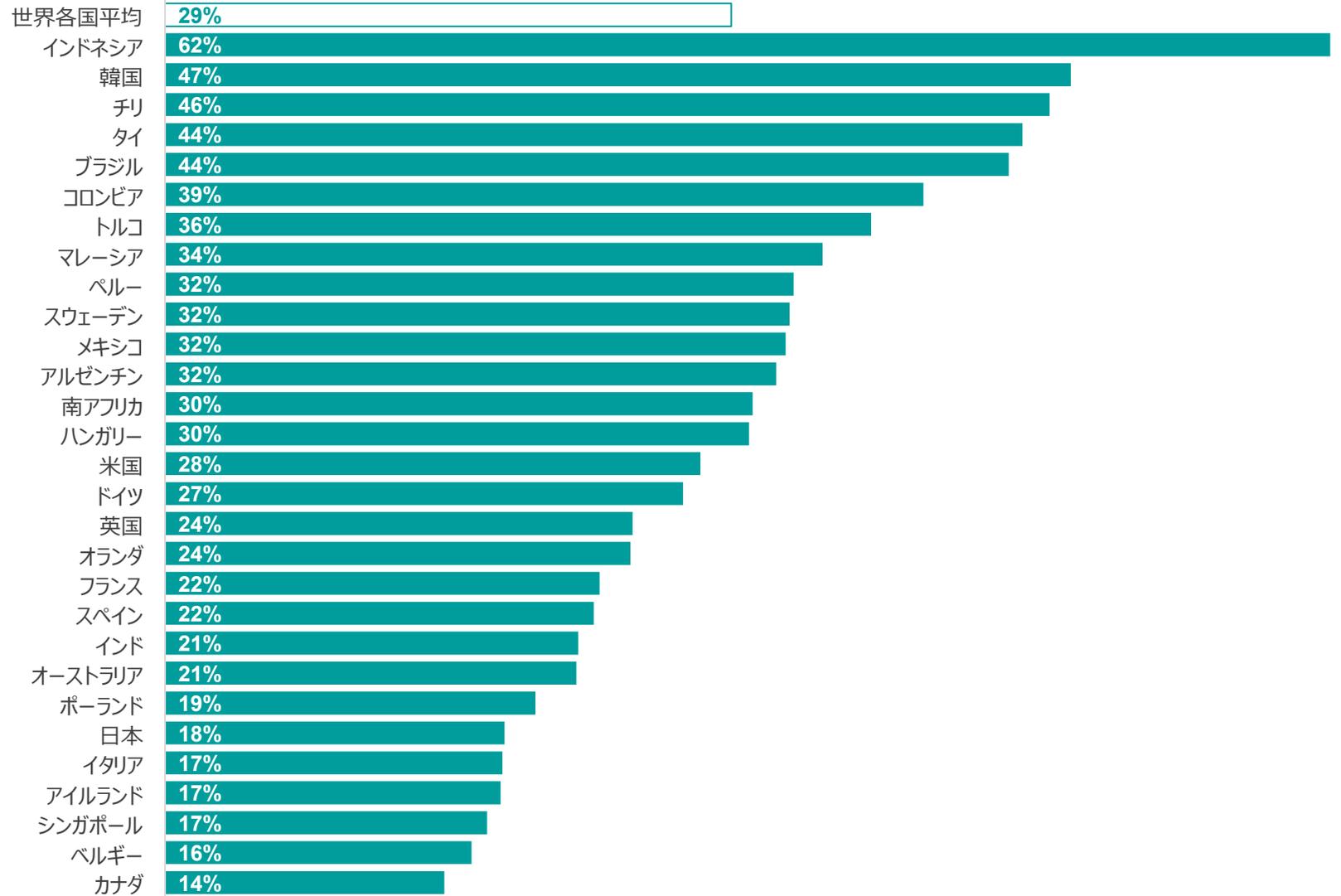


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

教育を受ける機会が不平等

国別データ



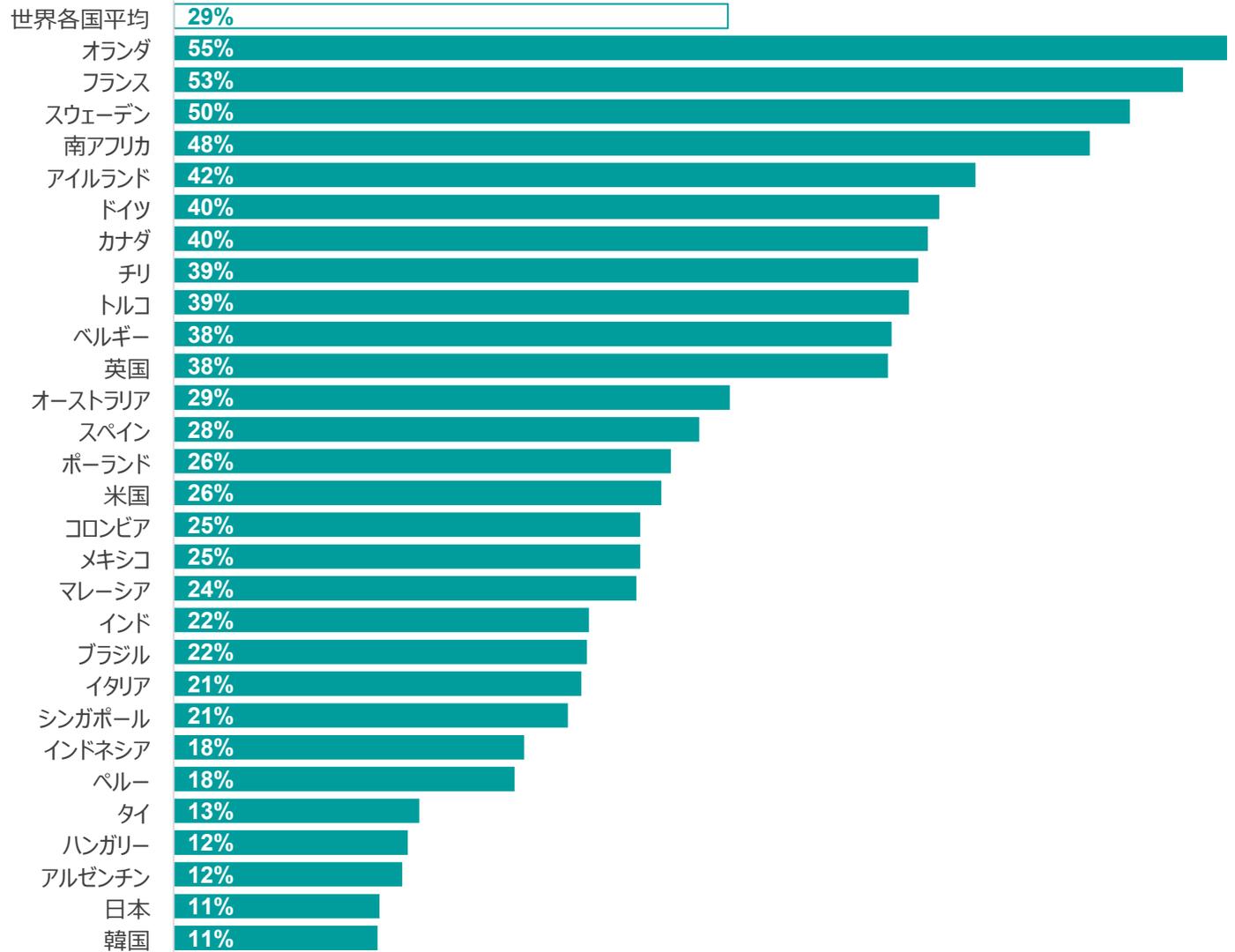


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

教室に生徒数が多過ぎる

国別データ



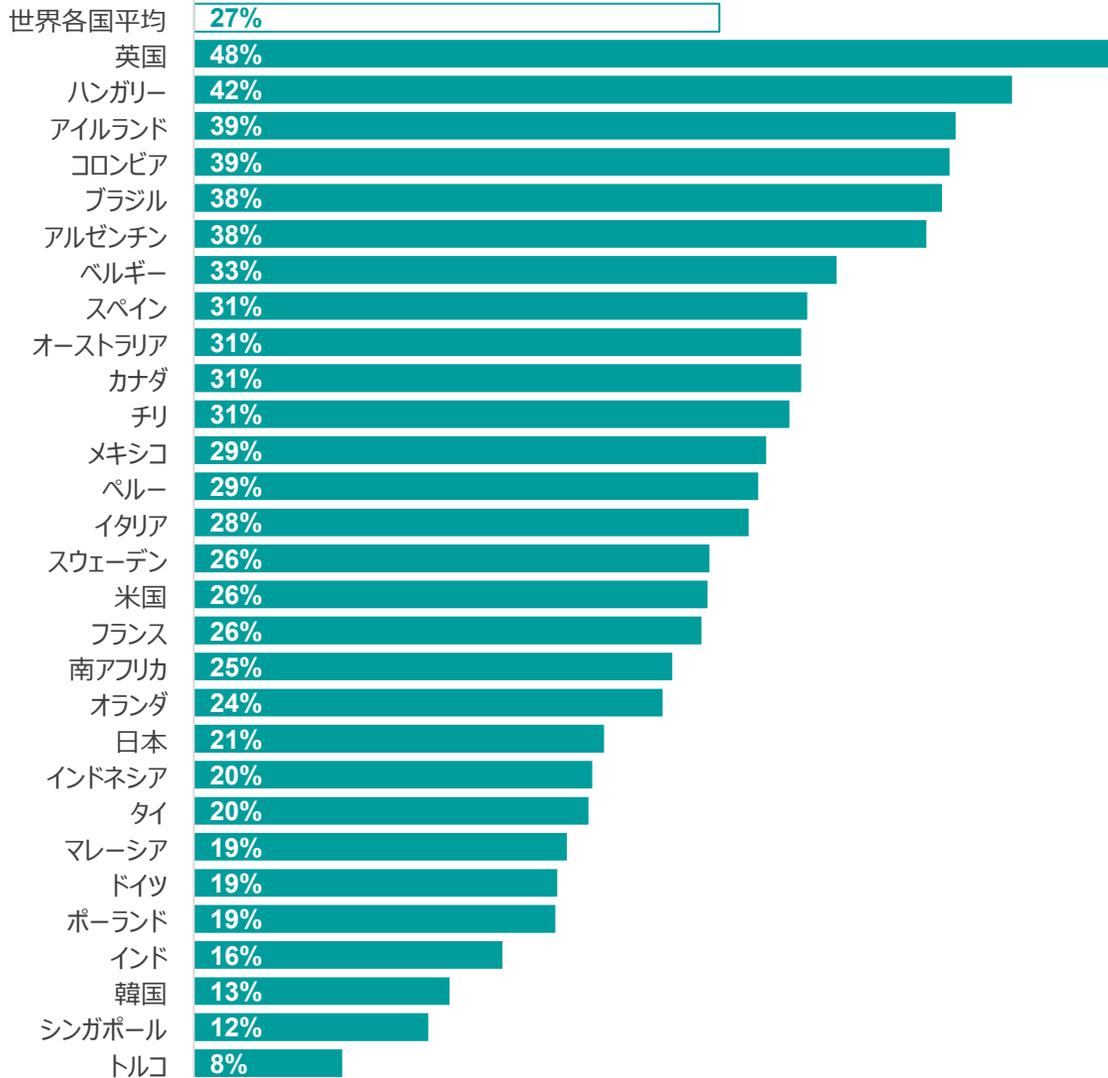


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

公的資金の不足

国別データ



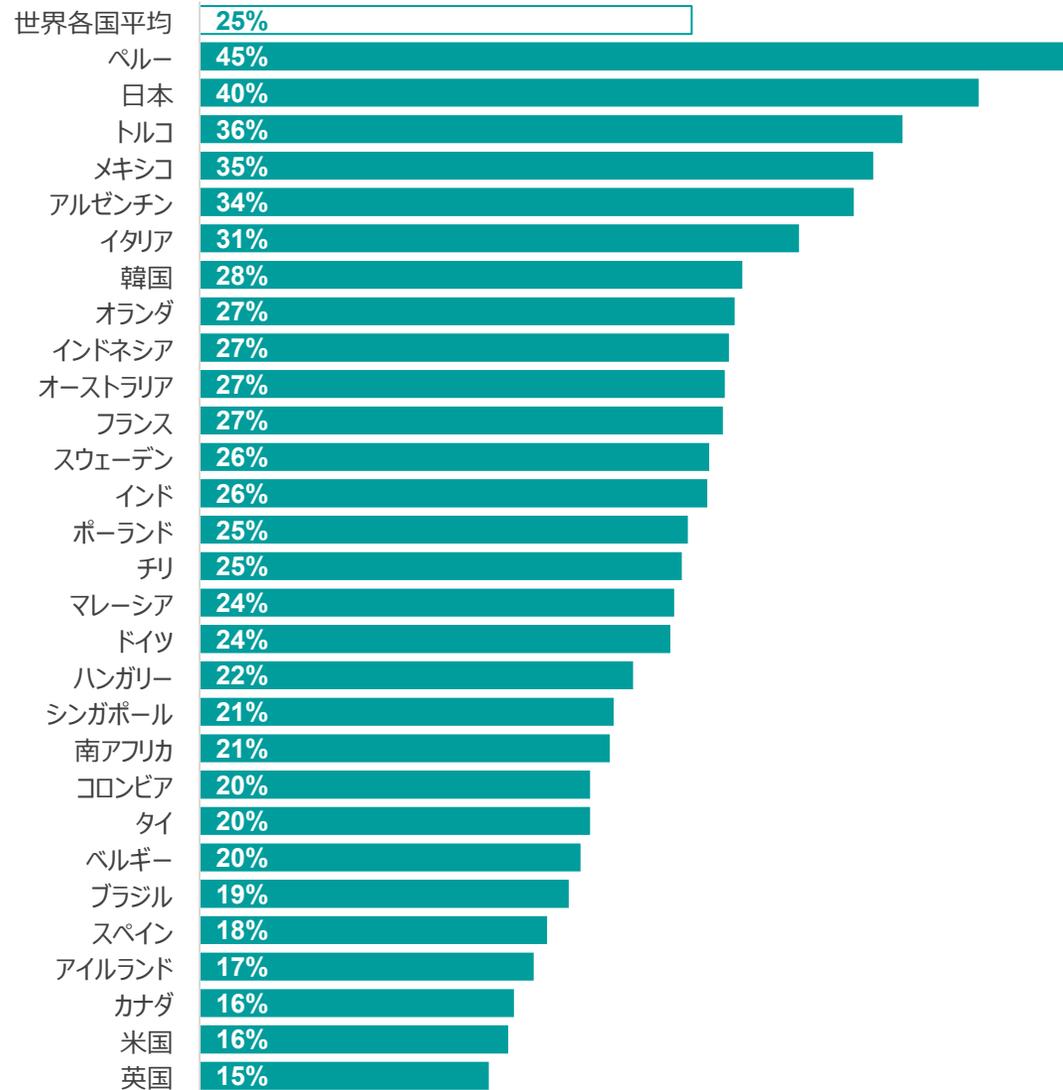


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

教員教育が不十分

国別データ



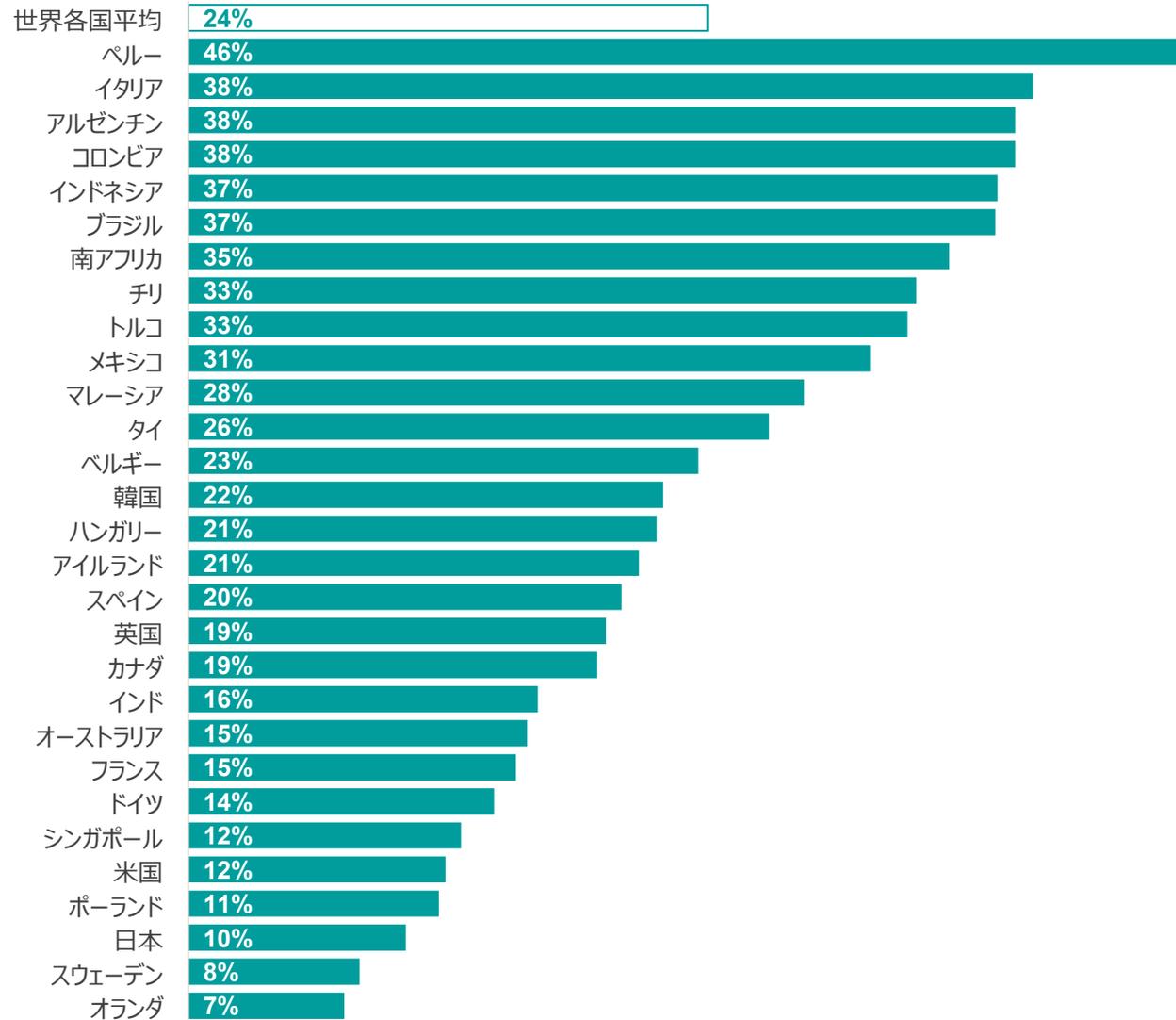


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

インフラが未整備

国別データ



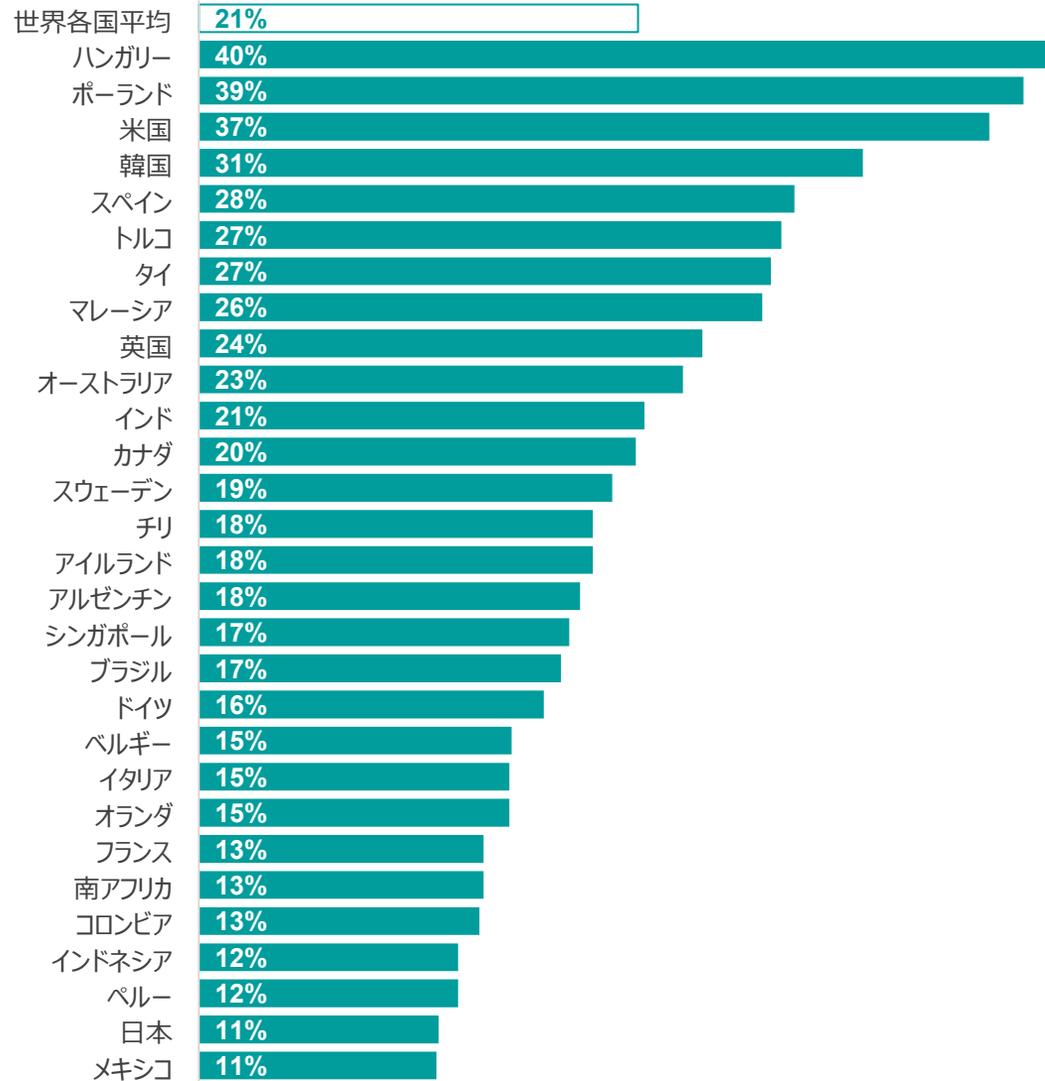


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

政治的/思想的偏見

国別データ



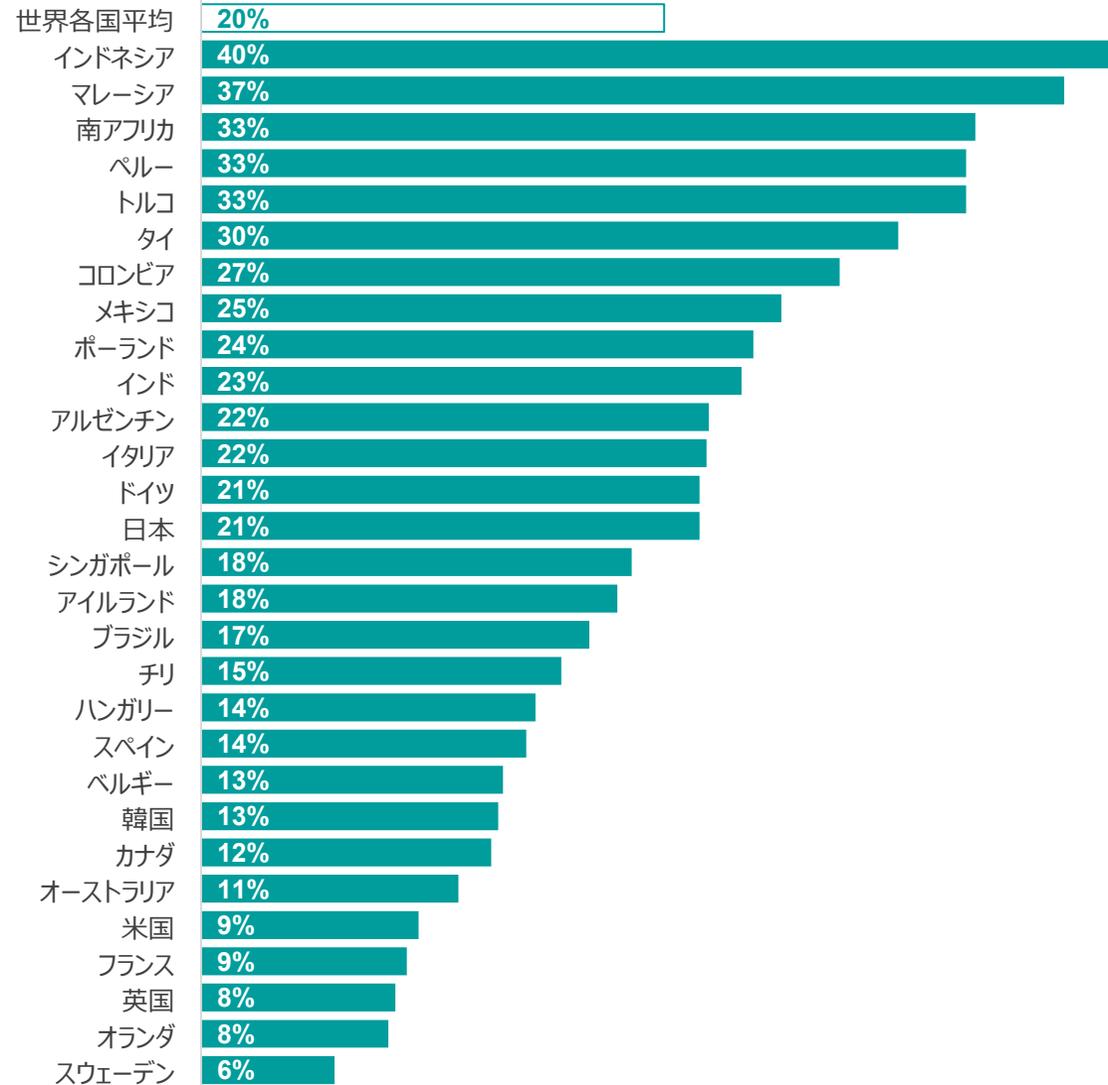


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

テクノロジーが十分に活用されていない

国別データ



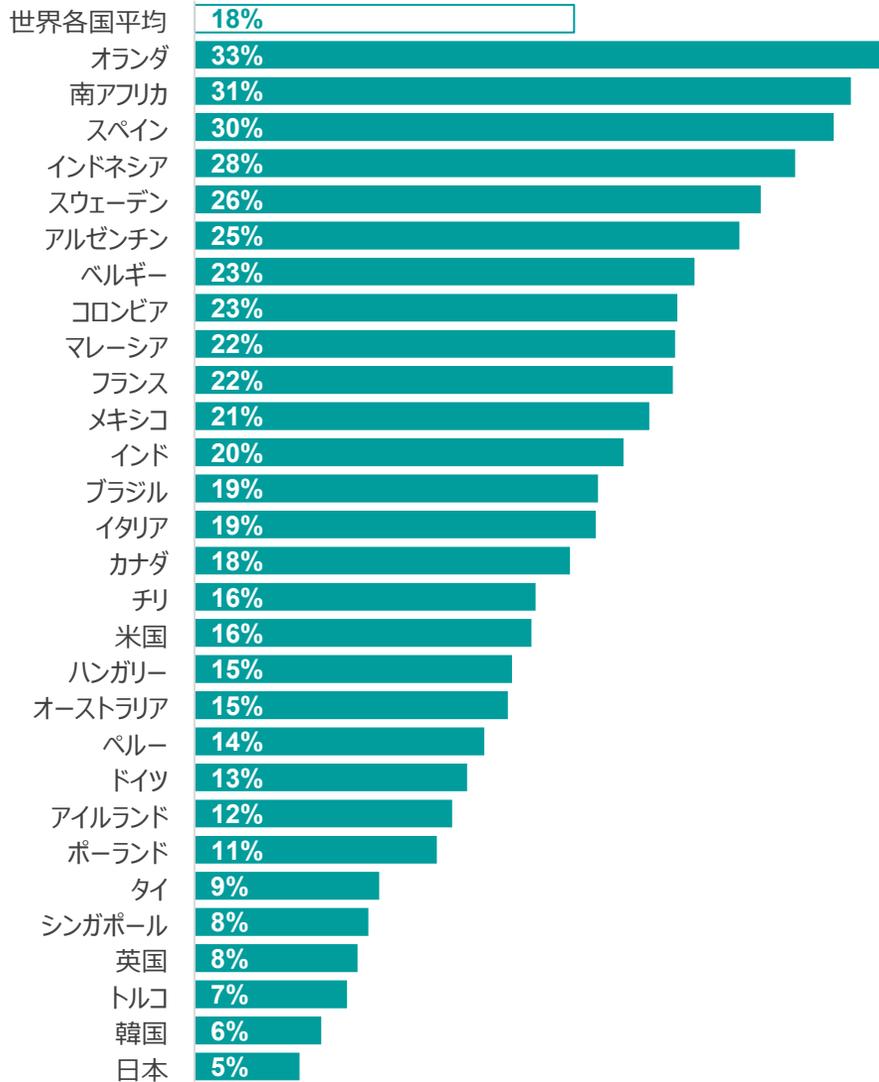


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

中退率が高い

国別データ



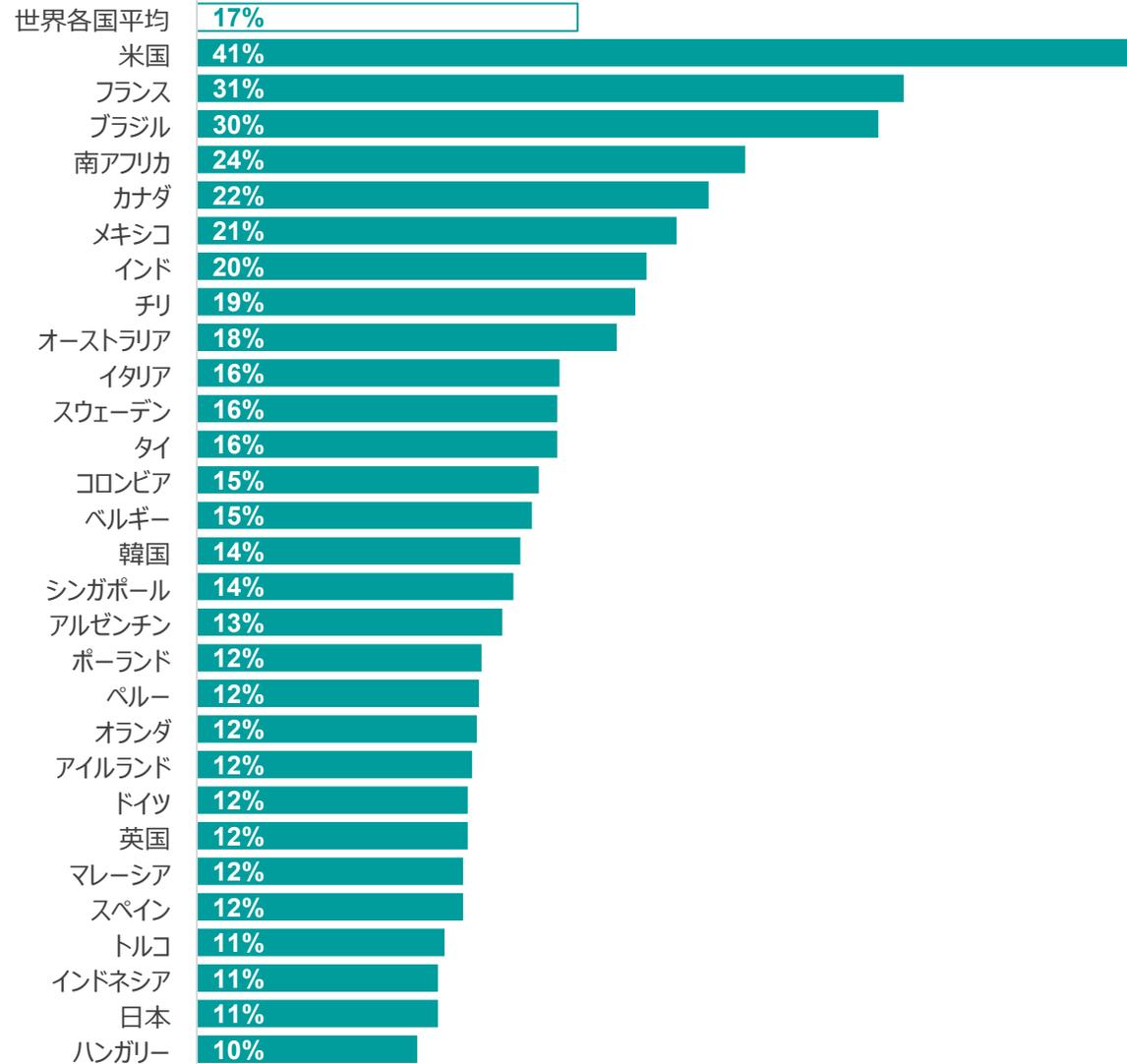


Q

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？（回答を3つまで選択してください）

安全と安心

国別データ

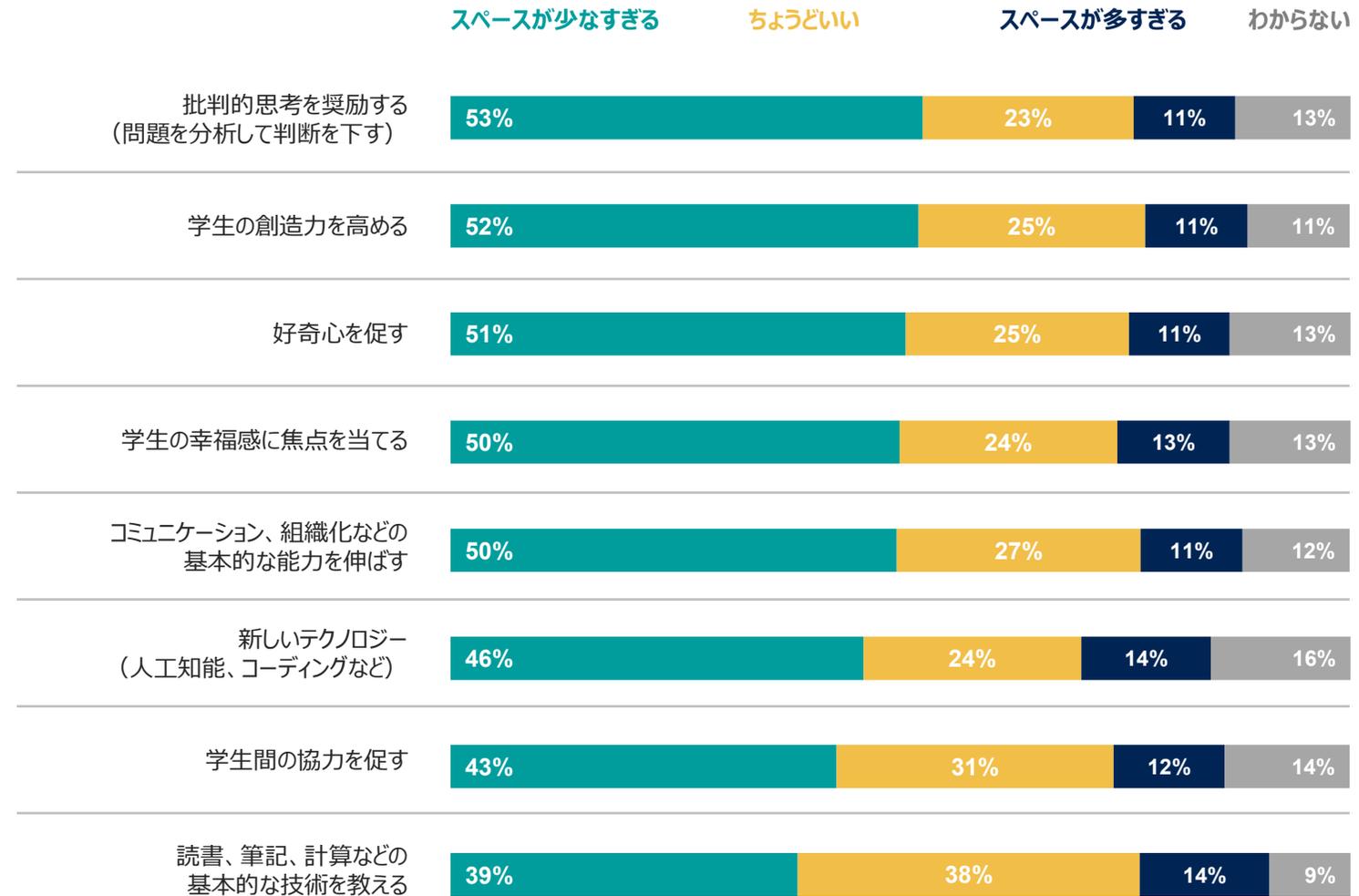




過半数が、学校は批判的思考、好奇心、創造力を奨励するためにもっと時間を割くべきだと考えています。

世界各国平均

Q. あなたの国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

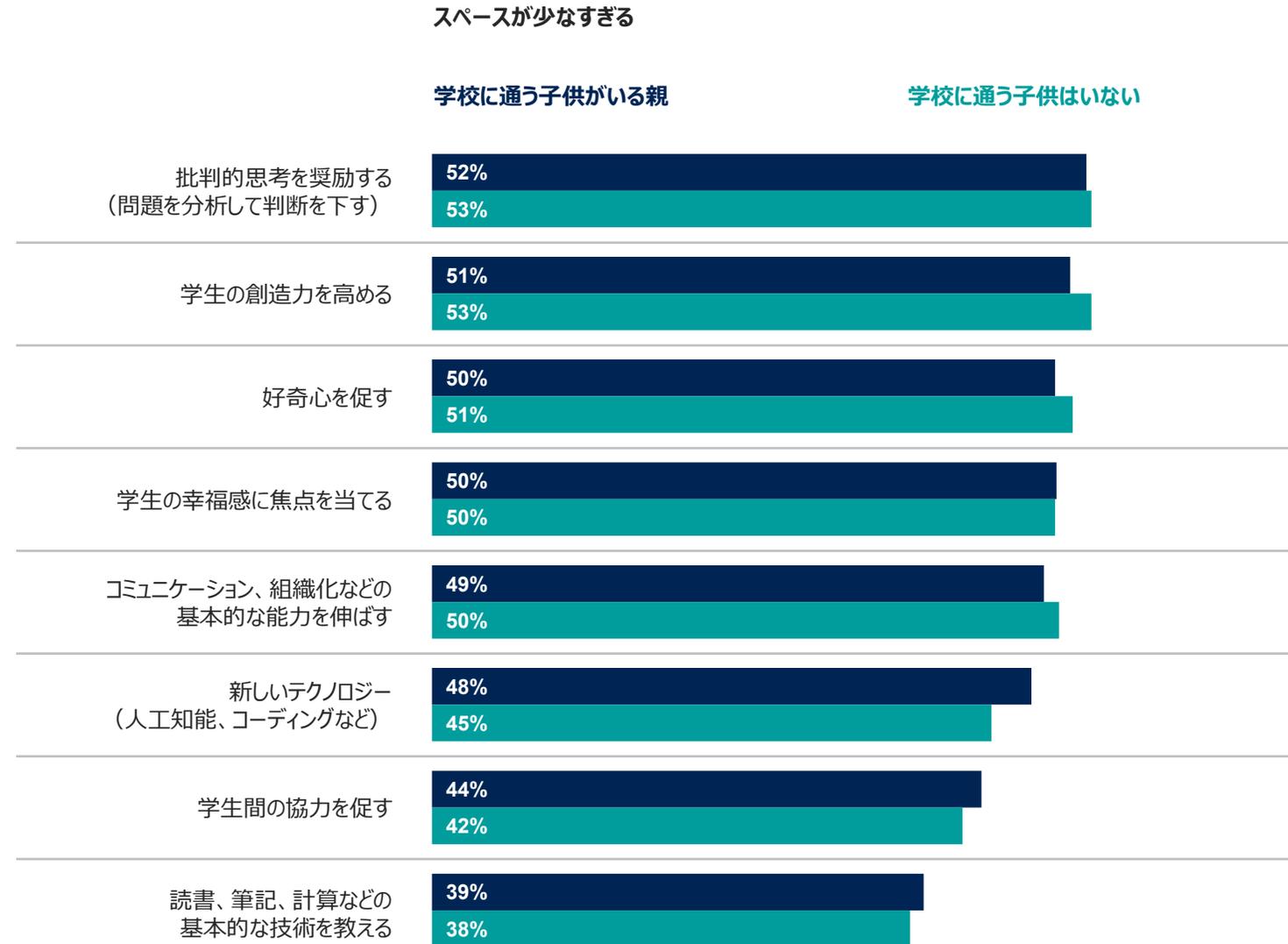




学校に通う子供がいる親といない親とで教育に対する考え方は異なりますが、能力を伸ばす場がもっと必要だという点では一致しています。

世界各国平均

Q. あなたの国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？



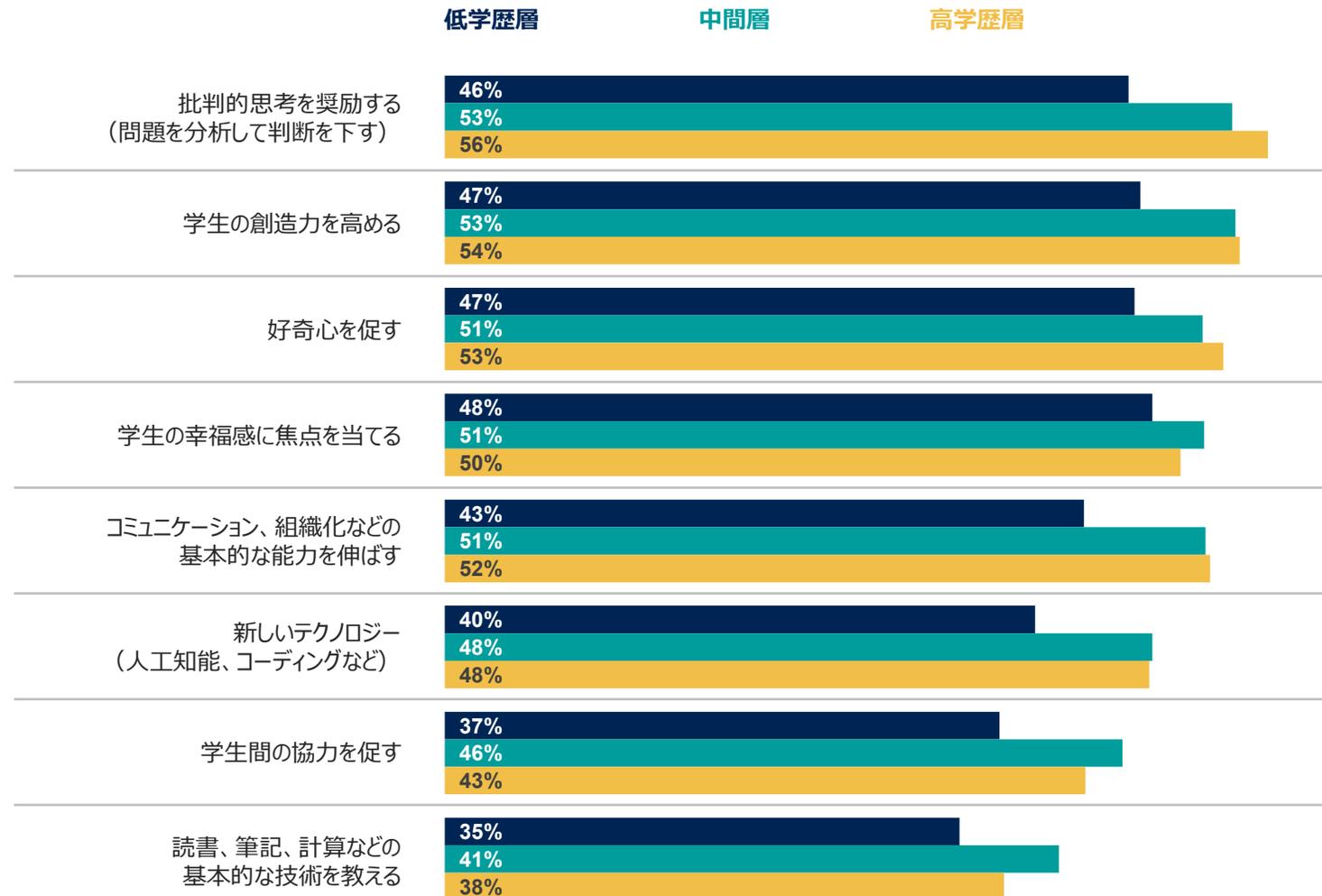


教育水準が低い人ほど、批判的
的思考のためにもっとスペースが
必要だと考える傾向があります。

世界各国平均

Q. あなたの国における学校のカリ
キュラムが、次の各要素のために用
意しているスペースは、多すぎる、少
なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該
当すると思いますか？

スペースが少なすぎる



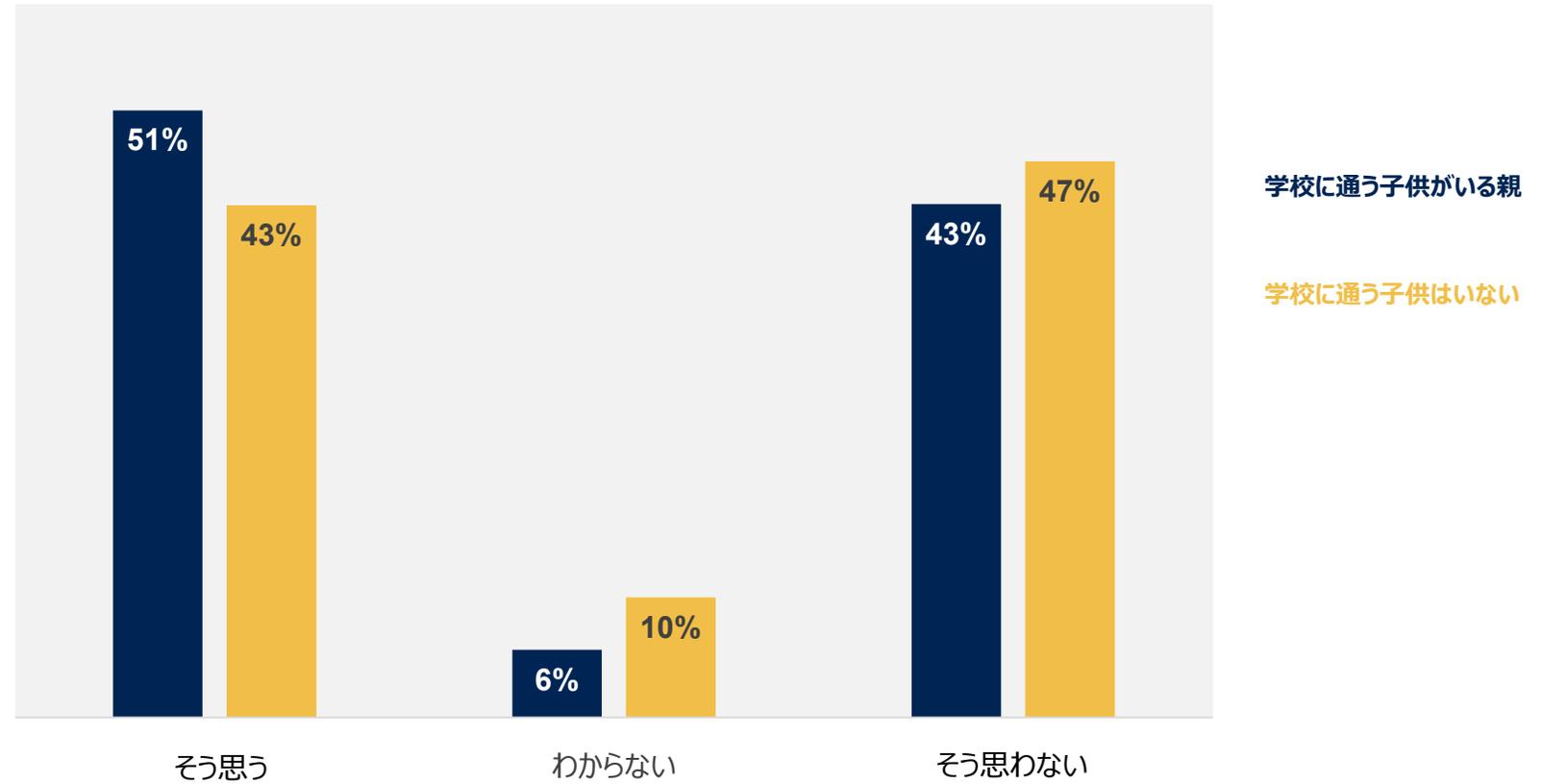


Q

次の各記述にどの程度同意できますか？

あなたの国では、大半の教員が十分に敬われている

国別データ



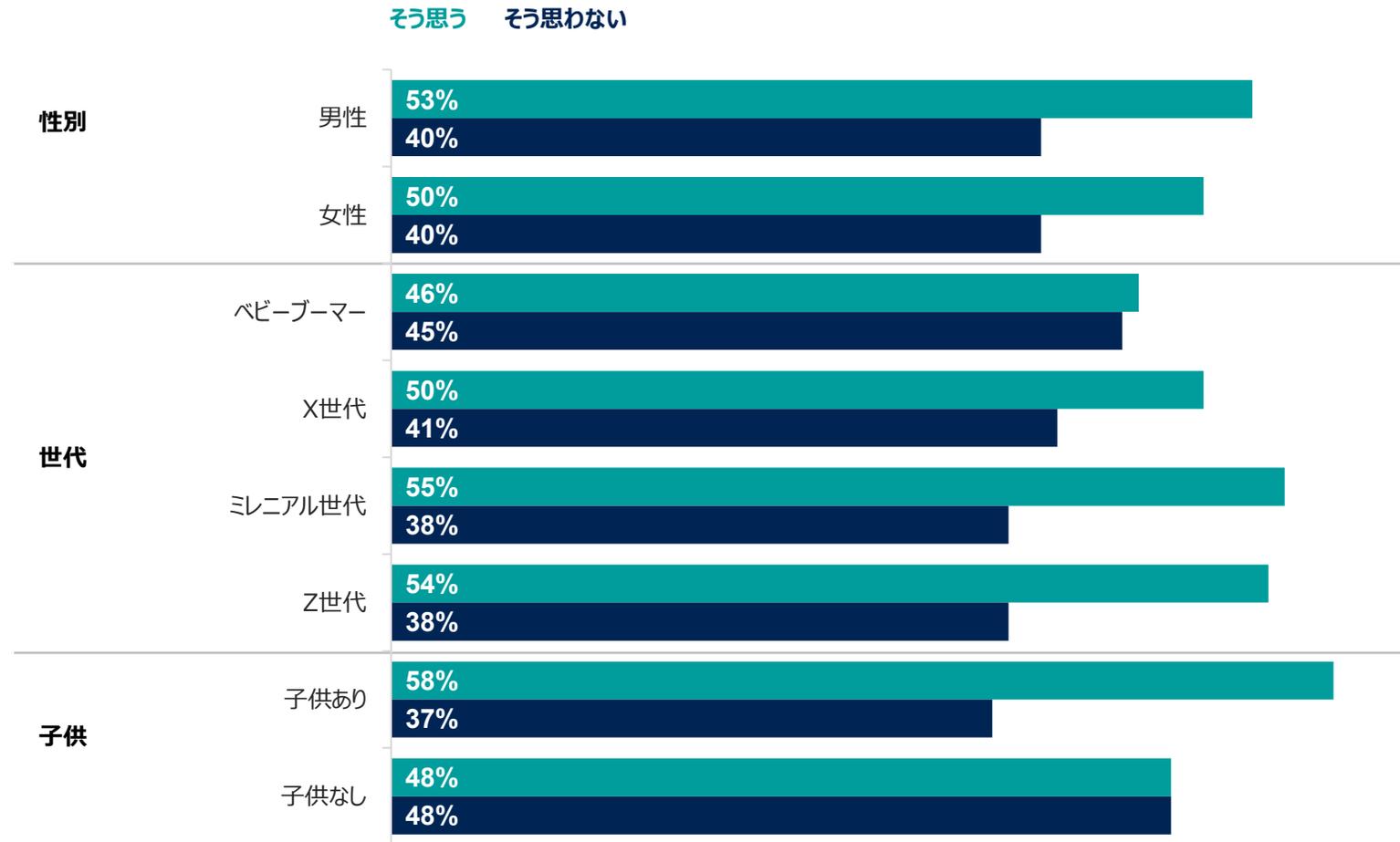


学校制度に批判的な意見が多い国々では、社会的不平等の緩和に役立っていないと考える人が多数を占めています。

国別データ

Q. 次の各記述にどの程度同意できますか？

あなたの国における教育システムは、社会的不平等の緩和に貢献している



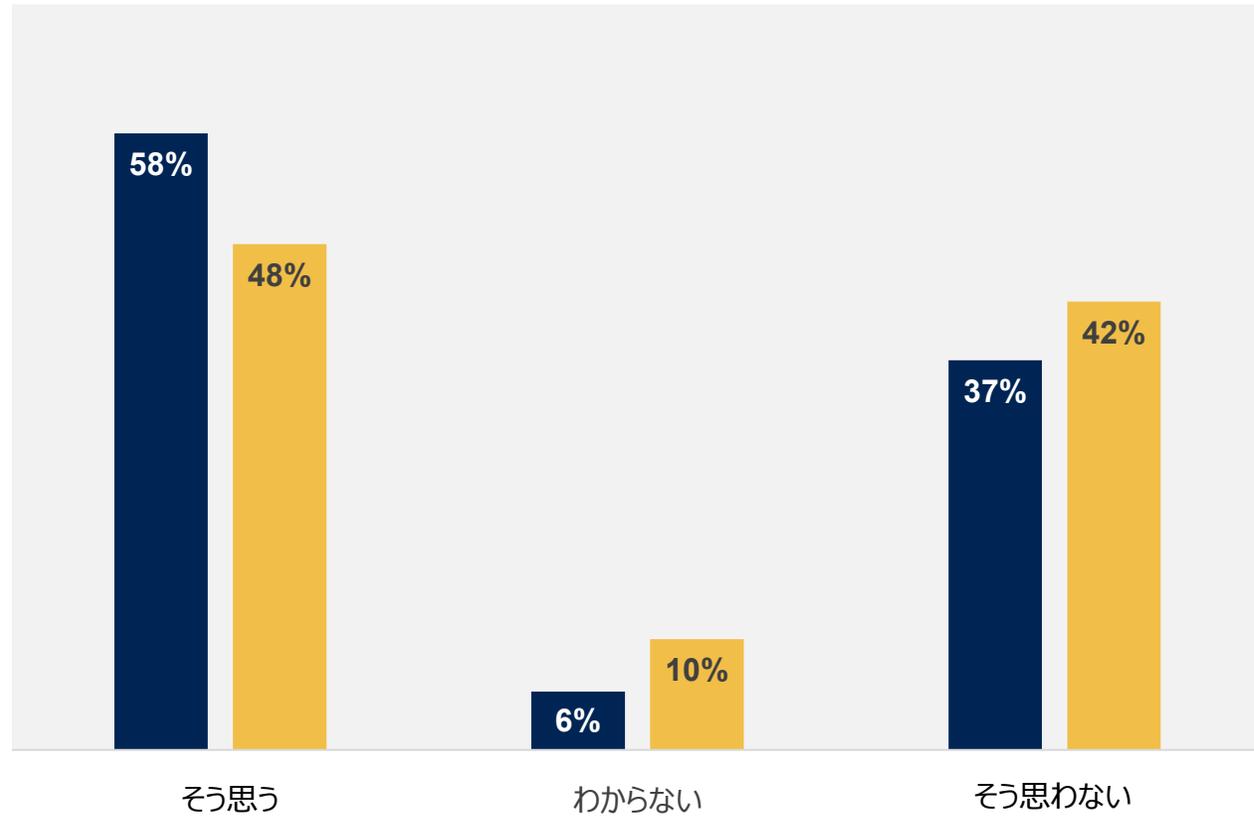


学校に通う子供がいる親は、学校に通う子供がいない親に比べて、教育システムが不平等を緩和していると感じる傾向が強くなっています。

国別データ

Q. 次の各記述にどの程度同意できますか？

あなたの国における教育システムは、社会的不平等の緩和に貢献している



学校に通う子供がいる親

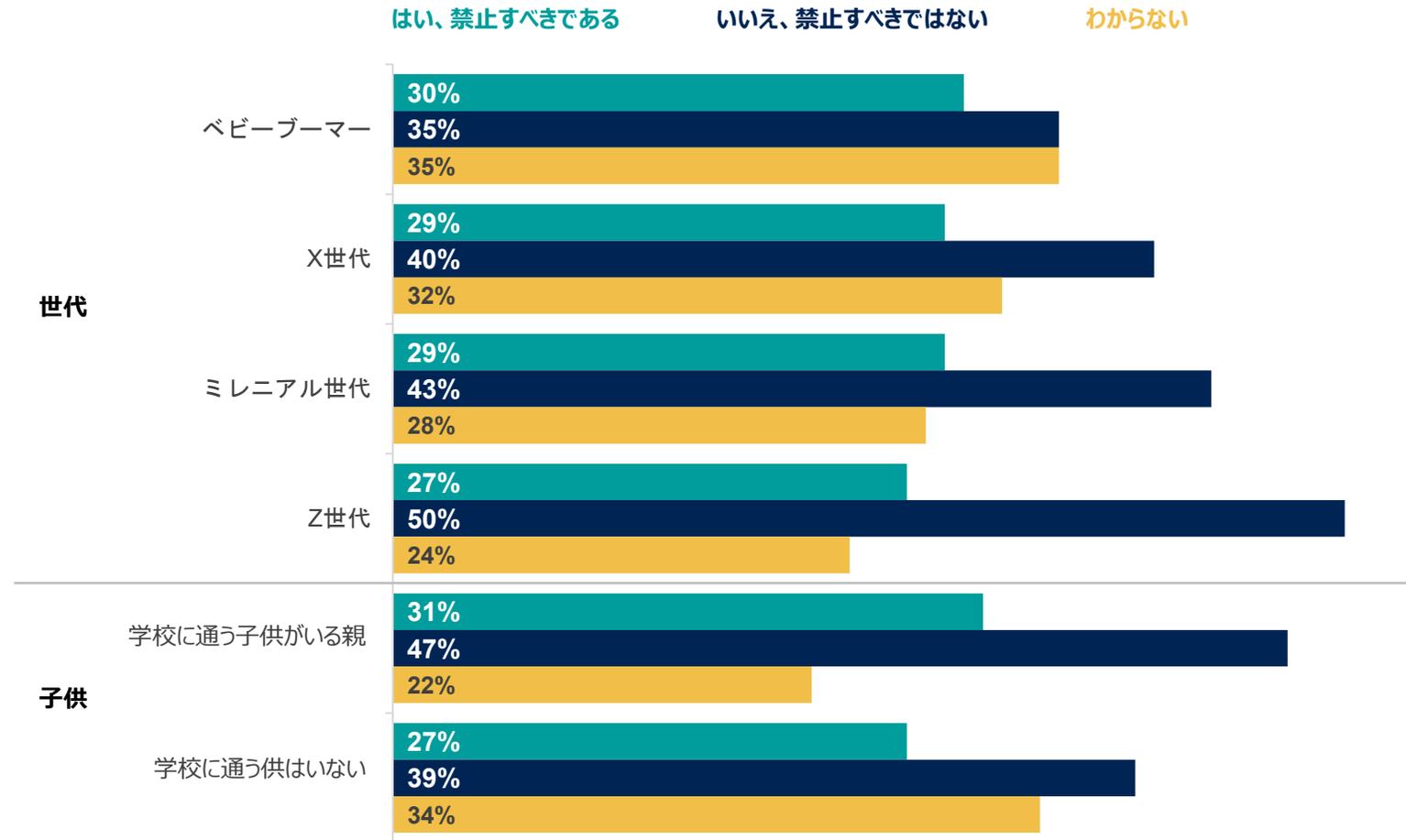
学校に通う子供はいる



学校に通う子供がいる人は、AIが学校で利用できるようになることに好意的です。

国別データ

Q. 学校でAI（ChatGPTを含む）の使用を禁止すべきだと思いますか？



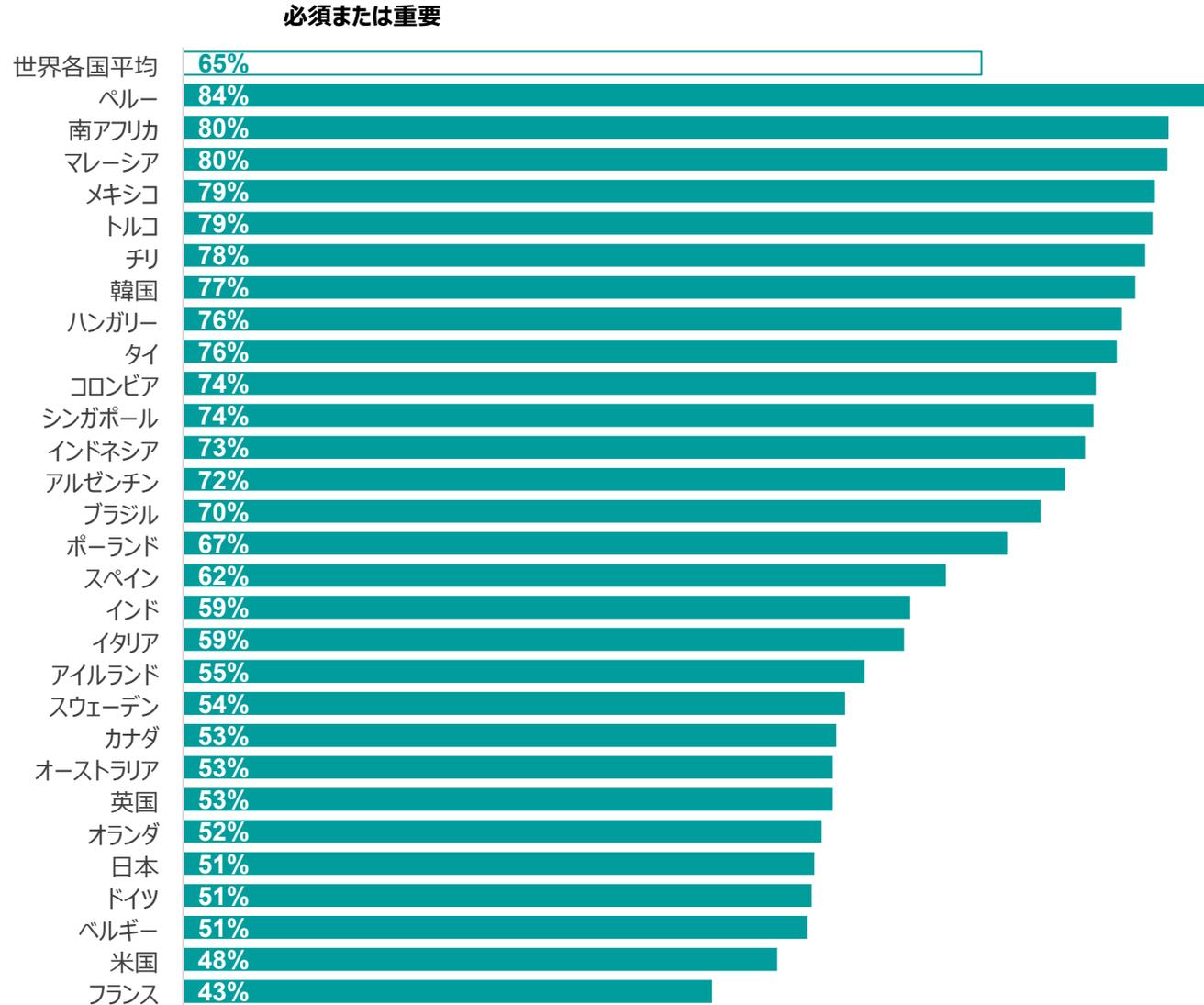


Q

人工知能（AI）について具体的にお聞きします。教員が以下の事柄に関するトレーニングを受けるのは、どのくらい重要だと思いますか？

AIを使った指導法（例：クラス準備において）

国別データ





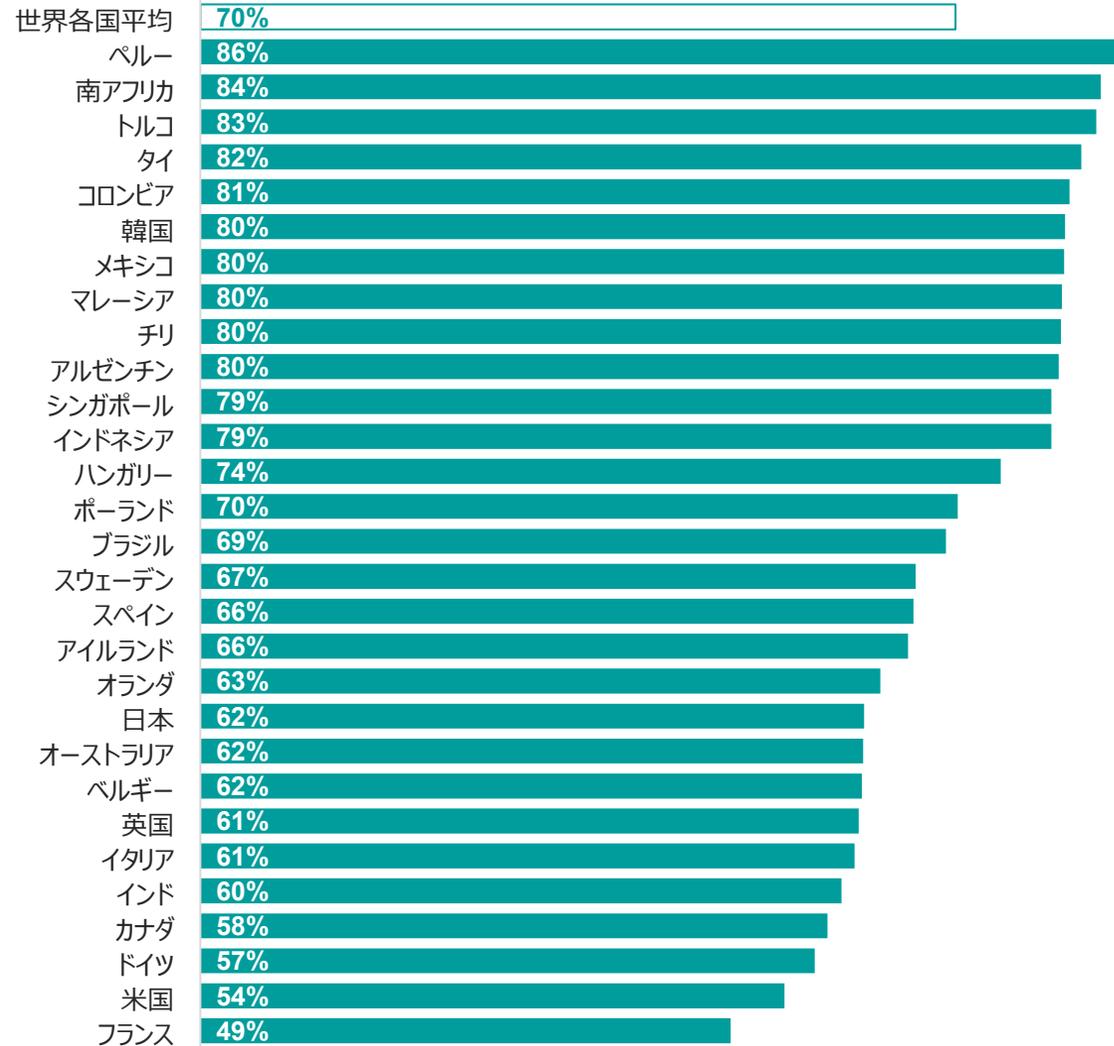
Q

人工知能（AI）について具体的にお聞きします。教員が以下の事柄に関するトレーニングを受けるのは、どのくらい重要だと思いますか？

AIの使い方を生徒に教える

国別データ

必須または重要





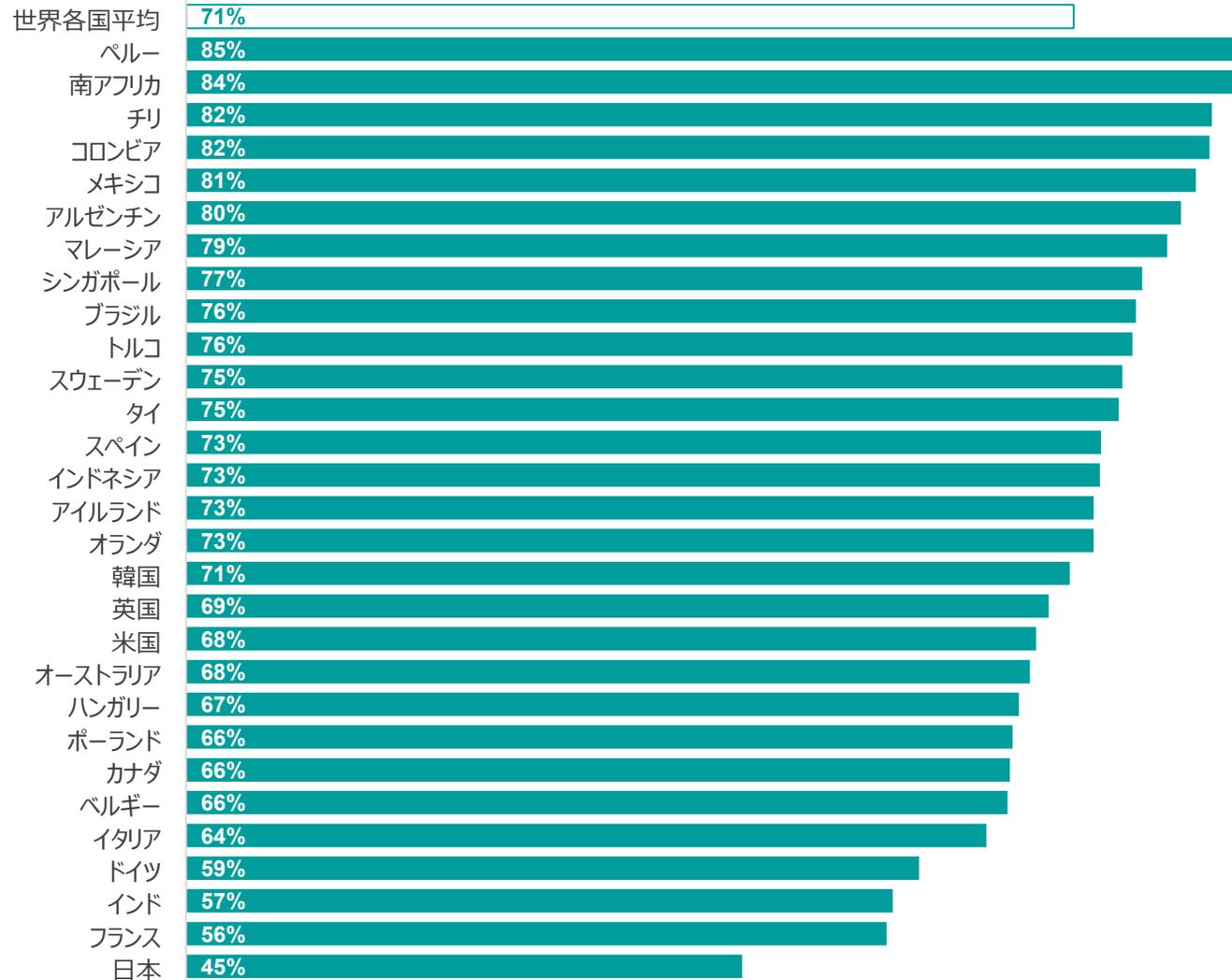
Q

人工知能（AI）について具体的にお聞きします。教員が以下の事柄に関するトレーニングを受けるのは、どのくらい重要だと思いますか？

生徒が記入し、学校に提出する文書（作文など）やテストへの回答を、AIを使用して識別する

国別データ

必須または重要



調査方法

このレポートは、2023年6月23日から7月7日にかけて、インドネシアとシンガポールの21～74歳、タイの20～74歳、米国、カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、南アフリカ、トルコの18～74歳、その他の国の16～74歳、合計23,248人を対象に、イプソスのオンライン調査プラットフォーム「Global Advisor」を通じて29か国で実施された調査の結果である。

サンプル数は、日本で約2,000人、オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、メキシコ、シンガポール、スペイン、米国で約1,000人、アルゼンチン、ベルギー、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、アイルランド、マレーシア、オランダ、ペルー、ポーランド、南アフリカ、韓国、スウェーデン、タイ、トルコで約500人となっている。

インドのサンプル数は約2,200人で、そのうち約1,800人は対面調査、約400人はオンライン調査となっている。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、その国の75歳以下の一般人口を代表しているとみなすことができる。

ブラジル、チリ、コロンビア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口に比べて、より都会に住み、教育水準が高く、裕福である。これらの国の調査結果は、より「コネクテッド」な層の意見を反映していると思われるだろう。

インドのサンプルは、社会経済クラスA、B、Cと、国内の4つのゾーンにまたがる都市階級ティア1～3という、都市人口の大きなサブセットを代表している。

データは、各国のサンプル構成が最新の国勢調査データによる成人人口の人口動態を最もよく反映するように重み付けされている。

「世界各国平均」は、その年に調査を実施したすべての国の平均値である。各国・各市場の人口規模に合わせて調整されておらず、総合的な結果を示すものではない。

パーセンテージの合計が100にならない場合、または「差」が実際の計算結果よりも±1ポイント程度大きくまたは小さく見える場合は、四捨五入、複数回答、「わからない」または未回答が除外されている可能性がある。

イプソスのオンライン世論調査の精度は、1,000人の世論調査の精度を±3.5%ポイント、500人の場合は±4.8%ポイントの信頼区間を用いて計算されている。イプソスが使用する信頼区間に関する詳細は、イプソスのウェブサイト参照のこと。

本調査結果の公表は現地の規則に従う。

ABOUT IPSOS

Ipsos is the third largest market research company in the world, present in 90 countries and employing more than 18,000 people.

Our research professionals, analysts and scientists have built unique multi-specialist capabilities that provide powerful insights into the actions, opinions and motivations of citizens, consumers, patients, customers or employees. We serve more than 5000 clients across the world with 75 business solutions.

Founded in France in 1975, Ipsos is listed on the Euronext Paris since July 1st, 1999. The company is part of the SBF 120 and the Mid-60 index and is eligible for the Deferred Settlement Service (SRD).

ISIN code FR0000073298, Reuters ISOS.PA, Bloomberg IPS:FP

www.ipsos.com

GAME CHANGERS

In our world of rapid change, the need of reliable information to make confident decisions has never been greater.

At Ipsos we believe our clients need more than a data supplier, they need a partner who can produce accurate and relevant information and turn it into actionable truth.

This is why our passionately curious experts not only provide the most precise measurement, but shape it to provide True Understanding of Society, countries and People.

To do this we use the best of science, technology and know-how and apply the principles of security, simplicity, speed and substance to everything we do.

So that our clients can act faster, smarter and bolder.

Ultimately, success comes down to a simple truth:

You act better when you are sure.

“**Game Changers**” – our tagline – summarises our ambition to help our clients to navigate more easily our deeply changing world.

